



京都府地域文化創造促進事業

2025年度 実施報告

京都府地域文化創造促進事業
2025年度 実施報告

目次

はじめに 京都府地域文化創造促進事業について	2
情報発信 KYOTOHOOP	8
主催事業 地域プログラム	10
丹後地域	12
音気楽団「機(はた)の妖精にきく」	
中丹地域	22
大江の物語「変化する鬼たち」	
南丹地域	32
まねてまねぶ伝統芸能「まねっこ浄瑠璃」	
山城地域	42
みんなで歌おう！合唱プロジェクト	
アウトリーチ 次世代向け派遣事業（文化の心次世代継承事業）	52
学校・アート・出会いプロジェクト	53
学校・茶の湯・出会いプロジェクト	58
学校・いけばな・出会いプロジェクト	64
おわりに 謝辞	70

はじめに

Introduction

京都府地域文化創造促進事業について

京都府地域文化創造促進事業は、南北に長い京都府の多様な地域に息づく文化資源を活かし、文化芸術の力による地域づくりを進めるため、2019年度から展開している事業です。文化芸術分野の専門人材の経験や知見を活かしながら、京都府域に根付く「ヒト・場所・コト」の交流を促進し、地域に内在する価値を新たな視点から見つめ直す機会を創出してきました。

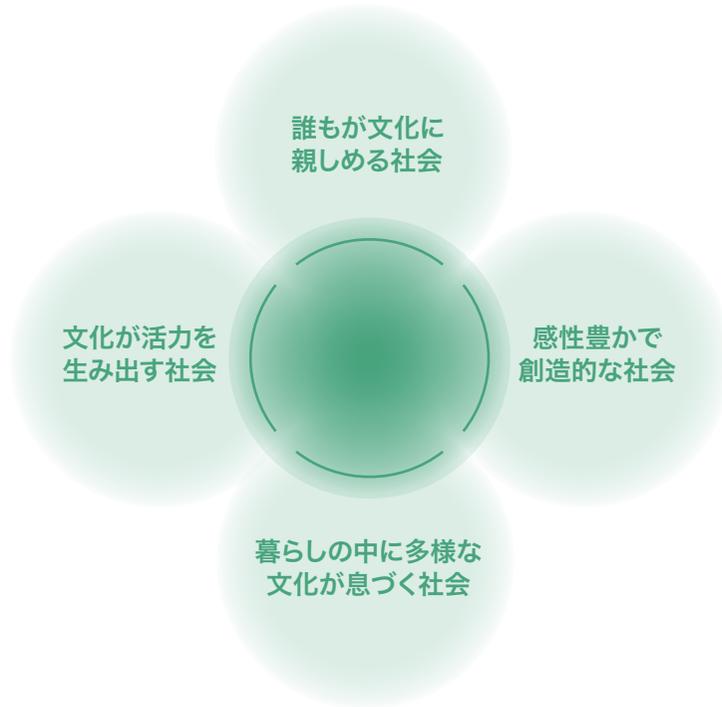
本事業では、アートの視点から地域の魅力を再発見することに加え、誰もが主体的に文化芸術活動に関わることができる環境づくり、そして、地域住民がそれぞれの暮らす地域に誇りと愛着を持ち、受け継がれてきた文化を大切にしながらも、新しい表現や価値観が生まれ続けることで、文化芸術を通じた地域の活力が循環していくことを目指しています。

7年目を迎えた2025年度は、府内各地を舞台に地域ごとの特性や課題に向き合いながら、地域プログラム及び次世代向け派遣事業を実施しました。多くの方々との対話や協働を通じて積み重ねられたプロセスとその記録を本冊子に収めています。本冊子に収められた実践や繋がりが、今後さらに「人と場所、地域と文化芸術」を育み、京都府民一人一人が思い描く未来へと繋がる一助となれば幸いです。

京都:Re-Search実行委員会

(事務局：京都府文化芸術課)

ビジョン



これまで

2019年度

京都府文化芸術課にプログラムオフィサーを1名、各広域振興局(丹後・中丹・南丹・山城)に地域アートマネージャーを1名ずつ配置し、文化芸術支援体制を強化。アーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を主軸に、アートの視点から地域の魅力を再発見する取組を丹後・南丹・山城地域で展開。

2020年度

コロナ禍への対応として、専門人材を中心に、文化芸術関係者への相談支援を実施。また、『京都:Re-Search』を丹後・南丹・山城地域で実施するとともに、地域の実情を踏まえた人材育成事業を4地域で開催。

2021年度

地域における文化芸術活動支援を進めるとともに、次世代向けのアウトリーチ事業を展開。文化芸術課に新たにプログラムコーディネーターを1名配置し、府域の文化芸術情報の一体的な情報発信を促進するとともに、『京都:Re-Search』を丹後・南丹・山城地域で継続実施。

2022年度

専門人材による調査・コーディネート成果を可視化するウェブサイト「KYOTOHOOP(きょうとふーぶ)」を新たに開設。『京都:Re-Search』を丹後・中丹地域で実施するほか、地域の文化芸術を促進するモデル事業を4地域で開催。

2023年度

専門人材と自治体・地域住民が協働し、文化芸術の担い手育成や鑑賞・体験機会の創出を目的とした7事業を実施。地域アートマネージャーによる文化芸術活動支援、ウェブサイト「KYOTOHOOP」による情報発信を継続。

2024年度

地域の文化芸術を促進するモデル事業を4地域で開催。あわせて、次世代向け派遣事業を拡充し、茶の湯・いけばな体験を新たな柱として位置づけ、子どもたちが日本の伝統文化の精神性や美意識に触れる機会を創出。

2025年度について

これまでの取組を踏まえ、府民による意欲的な活動が地域に根づき、将来にわたって持続的に展開されていくことを目指して、「地域の能動性を引き出す」ことに留意しながら、地域における文化芸術の鑑賞・体験機会の創出に取り組みました。

京都府の専門人材が中心となって企画・運営する「地域プログラム」では、市町村や地域の文化団体、関係者等の参画を促し、住民自らが地域の魅力を自身の感性で捉え、表現するプロセスを組み込むことで、主体的な関わりを促進しました。また、地域外からのアーティストの招聘に加え、地域在住のクリエイター等にも活躍の場を設け、住民とクリエイター等との継続的な交流が生まれる取組を行いました。

次世代を担う子どもたちを対象とした次世代向け派遣事業では、表現や技法の体験にとどまらず、文化芸術を通じて育まれてきた「こころ」に触れる機会を重視し、茶の湯及びいけばな体験を本格的に実施する初年度として、日本文化の精神性や美意識に出会う取組を推進しました。

事業体制

文化の力を活かした地域の活性化のため、京都府文化芸術課に、事業統括・企画立案や情報発信を行う2名の専門人材を配置するとともに、府内地域における文化芸術活動を支援し、かつ地域住民の自主的な文化活動への指導・助言のできる専門性を備えた人材を地域アートマネージャーとして各広域振興局(丹後・中丹・南丹・山城)に1名ずつ配置。

専門人材が核となり、京都府と市町村等で構成された「京都:Re-Search 実行委員会」等の団体や地域発のプロジェクトを通じて、文化芸術活動による個性豊かな地域づくりを推進しています。

[京都府専門人材の配置]

文化芸術課 | 2名(プログラムオフィサー/プログラムコーディネーター)

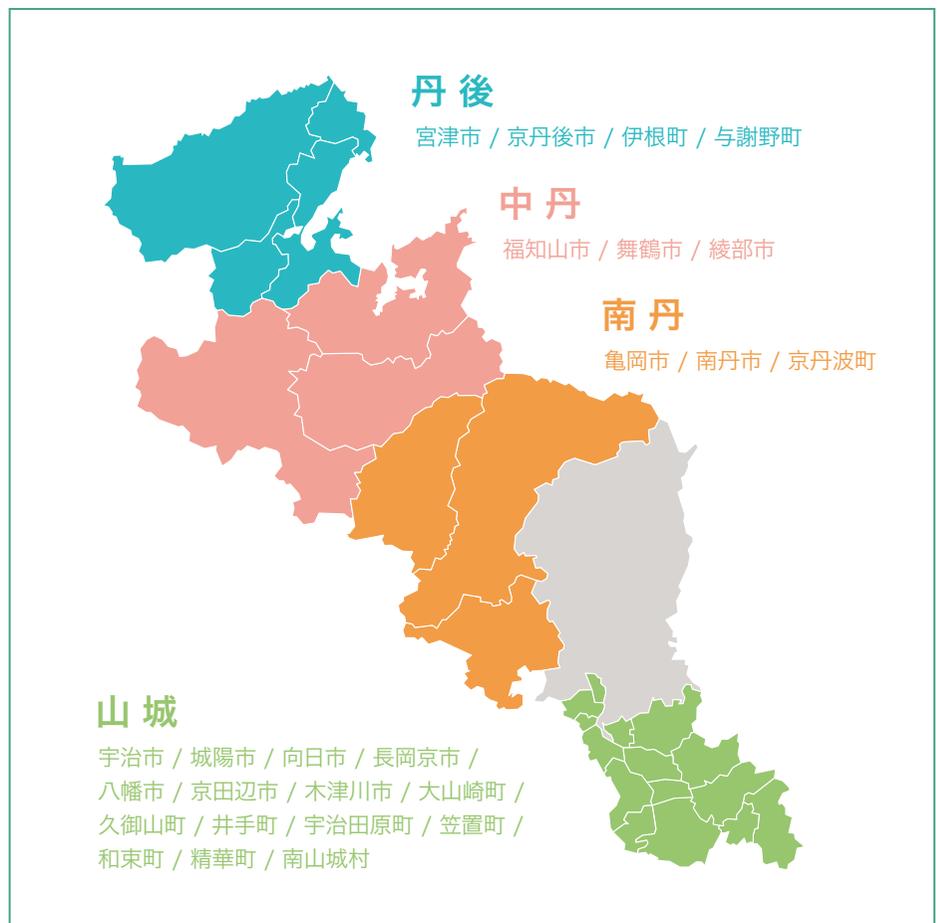
各広域振興局 企画・連携推進課 | 各1名(地域アートマネージャー)

地域アートマネージャー

地域アートマネージャーとは、文化芸術活動に関する知見及び文化芸術活動のコーディネート、マネジメント等の実務経験を有する専門人材です。各広域振興局に常駐し、府民や市町村等の要望に応じた支援を行う中で、地域における文化芸術活動の実情を調査・把握しています。主な担当業務は以下の3つです。

- 1 地域文化振興に関わる「人・場所・コト」の実態把握、情報発信
- 2 地域における文化芸術振興に関する府民等に対する指導・助言
- 3 地域における府民の文化芸術鑑賞・体験機会を創出するため、各広域振興局の事業と連動し、地域の実情に応じたモデル事業を企画、運営する業務

地域アートマネージャーの各担当区域



地域アートマネージャー プロフィール



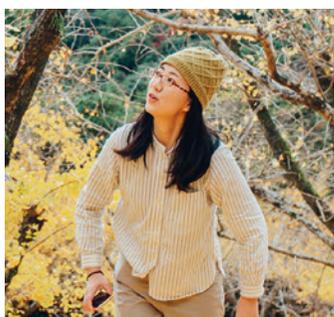
丹後地域担当 | 甲斐 少夜子 かい さよこ

インドネシア・カナダでの滞在や、自動車輸出の営業職などを経験後、スウェーデンにおいて織物に会い工芸・アートの世界へ転身。フィンランドへのテキスタイル留学時に、山口市&ロヴァニエミ市観光パートナーシップ協定締結記念展示会のキュレーターを務める。2019年5月から京都府地域アートマネージャーとして京丹後市へ移住。多種多様な経験から自然に培われたコミュニケーション能力を活かし、アーティスト・イン・レジデンス事業をベースに地域に寄り添う文化芸術活動支援を行っている。



中丹地域担当 | 坂本 真由美 さかもと まゆみ

大学で芸術学を専攻、美学や美術史、絵画、現代アートについて学び、学芸員資格を取得。その後、国立民族学博物館での勤務を経て“つくること”への関心が高まり、大阪市立美術館美術研究所で再度デッサン、実技について学ぶ。デザインの専門学校に通いながらクリエイターの道へ進む。ホテルやメーカーでのデザイン職を経験し、2015年に舞鶴市へUターン。ローカルチームの活動に関わる中で、フリーランスのデザイナーとして独立。2024年12月から現職。兼業でデザイナーを続けながら、中丹地域における文化芸術活動の支援を行っている。



@_naography

南丹地域担当 | 杉 愛すぎ あい

大学生活を過ごした島根県松江市で伝統工芸や伝統芸能、芸術を通して心豊かな時間をつくる大人たちに出会い、文化芸術振興に携わることを志す。2013年から(公財)北海道文化財団で道内179市町村を対象とした助成事業やアーティストとともに地域へ公演を届けるアウトリーチ事業を担当。2017年から福岡県大野城市の多目的複合施設“大野城まどかぴあ”にて多様なジャンルの公演・ワークショップ等の制作・運営・広報を行う。2023年7月から京都府地域アートマネージャーとして南丹地域を担当する。



山城地域担当 | 西尾 晶子 にしお あきこ

大学でアートマネジメントを学び、百貨店に就職。その後、音楽プロモーターでクラシックやジャズなど多彩なジャンルのアーティストたちの公演制作や広報、営業、チケット業務などを幅広く経験。2013年から、大阪府豊中市に本拠地を置く日本センチュリー交響楽団において公演制作、アーティストマネジメント、広報・マーケティングの業務に携わる。2021年8月から京都府地域アートマネージャーとして山城地域を担当する。

相談対応・伴走支援

京都府域での文化芸術活動について、地域アートマネージャーが情報提供等の助言や支援を行っています。また、地域発の長期の取組には、持続的な運営基盤を固められるよう伴走支援を行っています。

Pickup !

相談対応 | 南丹地域

アートプロジェクト(映像制作)の支援・協力

アーティストの作品制作にあたり、リサーチと情報提供を行いました。ともに美術作家である今村遼佑氏と光島貴之氏による映像作品の撮影場所について、必要な条件を踏まえて南丹地域で実施可能な場所を探り、候補地を複数提案。結果、廃校を活用した「あかまつの丘 西本梅(南丹市地域活性化センター)」での撮影が実現しました。完成した映像作品は、2025年11月、京都市内のギャラリー、eN artsでの展覧会『この世界の覚え方』にて発表されました。

写真:《今村さんの車を運転する / 光島さんに自分の車を運転してもらう》記録映像より



伴走支援 | 山城地域

地域の文化協会主催事業への出講協力

京田辺市文化協会が新設する「文化コーディネーター」をテーマにした勉強会に、地域アートマネージャーが講師として参加しました。前半のレクチャーでは、実例を交えながら文化コーディネーターの役割や必要な視点などを紹介し、後半のワークショップでは、地域の文化資源を参加者自身が考え、また今後の活動の可能性について意見交換を行いました。参加者同士が活発に議論を交わし、地域文化への新たな気づきが生まれる機会となりました。



その他、各地域で様々な支援等を行っています。

- 丹後 | 『TANGOまるっぽ美術館』企画・展示への助言・広報協力
京丹後市文化芸術振興審議会アドバイザー(～令和7年)、委員(令和8年～)
- 中丹 | 京都府立東舞鶴高等学校の授業「クリエイション芸術」講師紹介
舞鶴市文化事業企画懇話会委員
- 南丹 | 京丹波町落語実行委員会への広報に係る相談対応・協力
- 山城 | 宇治市『高校生文化芸術祭典～FUN×FAN×FES～』へのアーティスト紹介
京田辺市文化振興懇話会委員

KYOTOHOOP

京都府域の人と場所、文化芸術と地域の輪を育む情報サイトです。府域で活動する人や施設などを地図上に記録していくことで、人と人、場所と人などが繋がり新しいコトが起こる、文化芸術と地域が自発的に繋がる有機的な文化芸術のネットワークを【KYOTOHOOP(きょうとふーぶ)】と名付け、可視化し、育むことを目的に運営しています。人や場所の紹介以外にも、新しいコトを起こすきっかけとなるよう、各地域で展開されるプロジェクトの情報や、府内の文化芸術活動を深める記事なども更新中です。

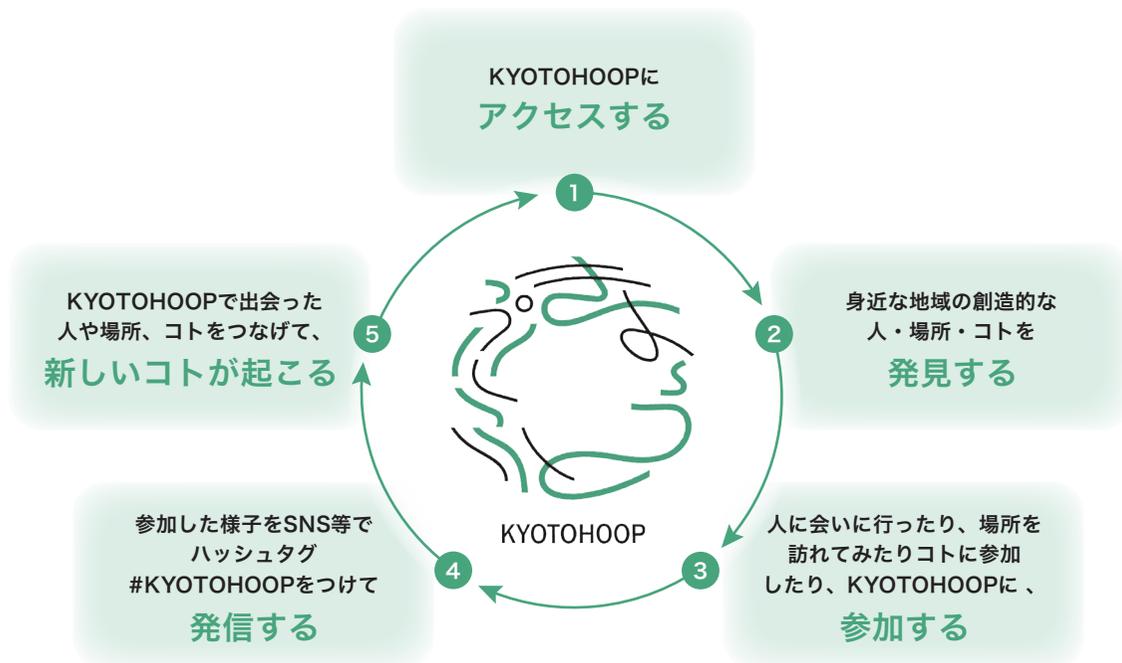


WEB
<https://kyotohoop.jp/>

Instagram
@kyotohoop

Facebook | @kyotohoop
YouTube | @kyotohoop

広がり、つながる、KYOTOHOOP



情報共有のお願い SNS

KYOTOHOOPでは、府民の皆さまからの文化芸術の発見を募集しています。Instagram等のSNSで、ハッシュタグ「#kyotohoop」または「#きょうとふーぶ」をつけて、京都府域で見つけた文化芸術を感じる人や場所、体験などを共有してください。



Instagram
@kyotohoop

京都府文化芸術関係者支援相談窓口 SUPPORT

京都府域(京都市を除く)での活動に対するご相談をメールフォームまたは電話で受け付けています。お気軽にお問い合わせください。



- ▶ メールフォーム <https://kyotohoop.jp/support/>
- ▶ 電話 075-414-5549 平日 9:00 ~ 11:30、13:30 ~ 17:00
- ▶ 対象 京都市を除く、京都府域で活動を行う、または活動を検討している文化芸術関係者の皆さま
(例：アーティスト、実演家、俳優、制作者、デザイナー、技術スタッフ、アートマネージャー、スペース運営者等)



support
メールフォーム

主催事業

地域プログラム

Program

「地域プログラム」では、府域における文化活動の振興を図ることや、文化・芸術活動の担い手を育成するための取組として、各地域の実情を把握した上で企画された4つの事業を実施しました。

丹後地域

音気楽団 -機(はた)の妖精にきく-

(宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)



中丹地域

大江の物語 -変化する鬼たち-
へんげ
(福知山市)

南丹地域

まねてまねぶ伝統芸能
「まねっこ浄瑠璃」
(京丹波町)

山城地域

みんなで歌おう!合唱プロジェクト
(笠置町・和束町・南山城村)

丹後地域

京都府最北部に位置する丹後地域は、天橋立、伊根湾、経ヶ岬、夕日ヶ浦等、人々を魅了する自然景観に恵まれています。丹後の気候・風土が育む自然や食に関わる農林水産業や観光業に加え、織物・機械金属業等ものづくりの伝統・技術が息づいています。古代には「丹後王国」として独自の繁栄をしていたとも言われ、浦島太郎や徐福等、数多くの伝説や民話が存在するほか、重要伝統的建造物群保存地区の「伊根浦舟屋群」や日本遺産『丹後ちりめん回廊』があり、歴史・文化のロマンがあふれる地域です。

丹後

宮津市 / 京丹後市 / 伊根町 / 与謝野町



丹後地域 | 宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

Kaico—参加型アートプロジェクト

音気楽団

—機(はた)の妖精にきく—



丹後地域にとって機音(はたおと)は地域の暮らしと一体のもの。2023年度から始まったKaico—参加型アートプロジェクトは、3年目となる本年度も引き続き日本遺産『300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊(以下、『丹後ちりめん回廊』)』を背景に、機工場を巡り、機道具に耳をすませて音をさぐり、音であそぶ『音気楽団—機(はた)の妖精にきく—』を実施しました。本プログラムは丹後在住でサウンドアートの第一人者、鈴木昭男氏を楽団長に迎え、〈ワークショップ〉と〈パフォーマンス〉で展開。日本遺産『丹後ちりめん回廊』にまつわる場所を中心に、丹後地域の2市2町を舞台に取り組みました。

期間 | 2025年9月20日(土)～10月5日(日)

会場 | 丹後地域各所

参加・観覧 | 無料

参加者・鑑賞者数 | 計274名

主催 | 京都:Re-Search実行委員会

(京都府、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、海の京都DMOほか)

楽団長 | 鈴木昭男(サウンドアーティスト)

旅の踊り子(ゲスト出演) | 宮北裕美(アーティスト)

地域サポーター | 崎川真璃絵/吉田裕美/筒井章太/ポーマン純子/田中匡代/河田恵美

記録動画制作 | VEJ VISUAL AND ECHO JAPAN

記録写真撮影 | 安田哲馬(ワークショップ)/bozzo(パフォーマンス)

音響レコーディング | 山崎昭典

機道具提供 | 株式会社吉村商店/丸仙株式会社/丹菱株式会社/田勇機業株式会社/吉豊織物/大善株式会社/与謝野町織物技能訓練センター

団旗・バンダナ生地提供 | 白井織物株式会社

リサーチ協力 | 株式会社吉村商店/丸仙株式会社/丹菱株式会社/田勇機業株式会社/株式会社山藤/tané textile/吉豊織物

会場協力 | Amanohashidate Terrace Coffee/浅茂川区民会館/実相寺/株式会社吉村商店/蒲入水産株式会社/蒲入集会所/MAEDA OLIVE FARM株式会社

バス運行 | 丹後海陸交通株式会社

広報連携 | 京丹後アートフェスティバル2025

協力 | 与謝野町観光協会/与謝野町立加悦小学校/池田隆/ちりめん街道を守り育てる会/加悦地区公民館/金刀比羅神社/グローアンドグロー株式会社/株式会社興和/NPO法人網野スポーツクラブ/宮津市立府中小学校/橋立大丸シーサイドセンター/妙立寺/宮津市教育委員会社会教育課/京都府織物・機械金属振興センター

詳細

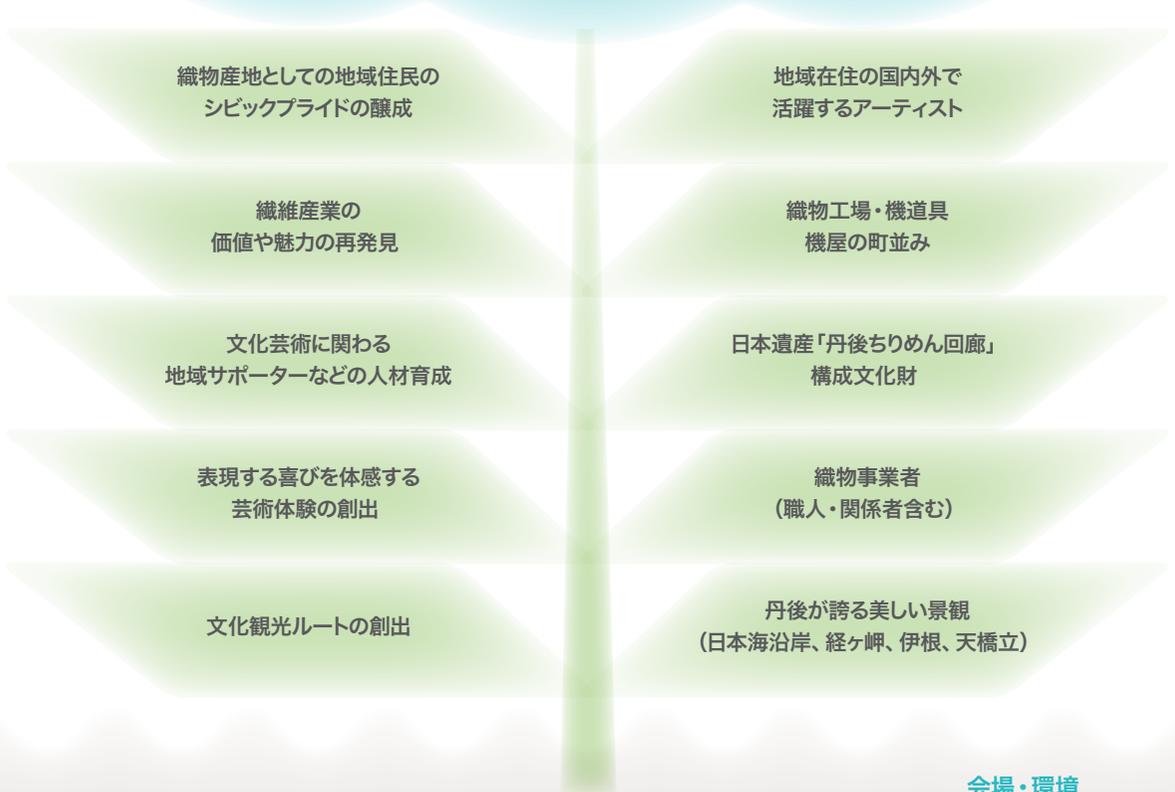


Kaico (蚕・懐古・回顧・邂逅) × 音

丹後地域において、蚕から生成される資源を大切にしてきたことを、懐かしく思い(懐古)、振り返り見る(回顧)ことで、思いがけない出会い(邂逅)を創造する文化活動を【Kaico】と名付け、地域文化資源である「織物文化」を活用して、地域の魅力と住民の出会い直しを行う参加型アートプロジェクト。本年度は「音」をテーマに、機工場が使われなくなった機道具に着目した。

目的

地域文化資源



会場・環境

丹後半島全域

自然景観に恵まれ、日本遺産『丹後ちりめん回廊』を構成する文化財が点在する丹後半島。本プログラムでは、そうした文化財やゆかりのある場所を舞台に、パフォーマンス及び鑑賞バスツアーを開催した。特に伊根町蒲入(かまにゅう)は昭和40年代(1965年頃)に漁協組合が運営する織物工場があり、漁業と織物で栄えた地であり、同地を含む丹後地域の知られざる歴史や文化を持つ地域のリサーチ開拓によって、会場として活用することに繋がった。

運営体制

主催 | 京都Re-Search実行委員会(丹後部会)

- 京都府(文化芸術課、丹後広域振興局企画・連携推進課、京都府立丹後郷土資料館)
- 宮津市(企画課) ● 京丹後市教育委員会(生涯学習課)
- 与謝野町(産業観光課) ● 伊根町(企画観光課) ● 海の京都DMO

アーティスト・講師 ほか



楽団長

鈴木 昭男
すずき あきお

サウンドアーティスト。1960年代の〈なげかけ〉と〈たどり〉のコンセプトによる自修イベントの体験の中からエコー音器ANALAIPOS(アナラポス)を創作し、演奏活動を展開。1987年、ドクメンタ8カッセルに出場した。1988年には、〈一日の自然に耳を澄ます〉「日向ぼっこの空間」を、日本標準時子午線の通る京都最北の丹後の山中で遂行。1996年、ベルリンで発表した巷に耳を澄ます「点音"o to da te"」を、世界各地で継続している。即興演奏家としても知られる。



旅の踊り子
(ゲスト出演)

宮北 裕美
みやきた ひろみ

アーティスト。イリノイ大学芸術学部ダンス科卒。舞台芸術の出演や振付を経て“立つ、歩く、座る”と言ったシンプルな動作、身の回りのモノや現象にダンスを見出し、即興パフォーマンスや視覚芸術の可能性を探る。2012年より丹後半島に拠点を置き、浜で採集した自然の石を打つダンス「Nutu(ヌトゥ)」を創始、国内外で上演。近年は公共の場や自然環境などで様々なパフォーマンスを手がける。

地域サポーター

崎川 真璃絵 さきかわ まりえ

吉田 裕美 よしだ ひろみ

筒井 章太 つつい しょうた

ボーマン 純子 ぼーまん じゅんこ
(文化観光サポーター)

田中 匡代 たなか まさよ
(文化観光サポーター)

河田 恵美 かわだ めぐみ
(文化観光サポーター)



ワークショップ 「はたおと・さぐり」

事前に行ったりサーチで、機工場から譲り受けた機道具を楽器として活用するワークショップを開催。鈴木昭男氏の指導のもと、参加者それぞれが機道具と向き合い新たな音を奏で、独自の音をさぐりました。つづいて、屋内、屋外での音の響きの違いや、周りの音との共鳴を体感。一人一人が体得した音をもとに、鈴木氏が楽団長、参加者が楽団員となり、音の気配を奏でる『音^{おん}気^き楽^{がく}団^{だん}』を結成しました。

「はたおと・さぐり」与謝野編

開催日 | 2025年9月20日(土)

会場 | Amanohashidate Terrace Coffee、
丸仙株式会社、阿蘇シーサイドパーク

参加者数 | 27名

「はたおと・さぐり」京丹後編

開催日 | 2025年9月27日(土)

会場 | 浅茂川区民会館、田勇機業株式会社、八丁浜海岸

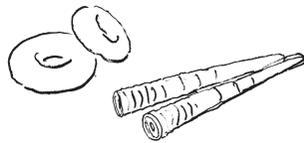
参加者数 | 15名

対象 | 小学生以上

参加 | 無料

時間 | 各日13:30～17:00

参加者数 | 計42名



ワークショップの流れ

① 「耳をすませ」

鈴木氏が発明した音器「アナラポス」のミニコンサートとトーク



② 「道具との出会い」

楽器とする機道具を選ぶ



③ 機工場見学

選んだ機道具の使用用途の答え合わせ



④ 音さぐり

機道具を楽器にして音を出す



⑤ 聴き合い

グループに分かれてそれぞれの音を聴き合う



ワークショップの風景



ワークショップ参加者の声

- とてもきれいな音やなみのおととか、じぶんでつくったがっきをつかえてとても楽しかったです。
(綾部市・～10代)
- ふるしきのたんごちりめんがものすごくほしいぐらいきれいなので、ママにほうこく…！
(西宮市・～10代)
- さいしょにえらんだ物が工場でどんなふうにつかったりうごいたりするかしくてよかった。みんなちがうおとがらせていてよかった。
(西宮市・～10代)
- 知らない人との交流は苦手ですが、とても楽しく遊ぶことができました。ありがとうございました。
(京丹後市・30代)
- 地域の大切な文化資産である織物を、「音」という観点から新しい視点で再発見する素晴らしい企画であり、また、鈴木昭男さんという唯一無二の視点と才能をお持ちのアーティストが導き手となってくださるという、とてもぜいたくな時間だと思います。この機会に巡りあえたことを幸運に感じています。
(与謝野町・40代)
- 丹後ちりめんは身近にありましたが、ここまで深くふれたのは新鮮で、楽しかったです。本番が楽しみです。
(京丹後市・40代)
- すずきさんは、「聴く耳」をひきだすスペシャリストだなと感じました。「耳」の解像度が高まって、音が魅力的に変わっていく気がしました。しげきので楽しい時間でした。
(福知山市・40代)
- とても楽しいワークショップでした。音も織物も、自然もふかくしれてよかったです。機道具ですてきな音がありました。
(綾部市・40代)
- 京丹後地方の文化を深める意味でもとても良い企画だと思います。
(京丹後市・60代)
- はじめてで音楽はなにかわからないけど好きなように音を出せて良かったです。
(京丹後市・70代)



パフォーマンス

「はたおと・あそび」

ワークショップ「はたおと・さぐり」で結成した『音^{おん}気^き楽^が団^{だん}』が日本遺産『丹後ちりめん回廊』にまつわる4会場をステージにパフォーマンスを披露。鈴木氏の演出や掛け声に合わせて、楽団員が探り当てたリズムや音で、機道具を叩いたり、揺らしたり、こすりあわせたりして演奏しました。あわせて、織物文化や自然景観のガイドを交えて丹後半島を巡る鑑賞バスツアーを実施しました。

開催日 | 2025年10月5日(日)

会場 | 丹後半島4会場

参加・鑑賞 | 無料

時間 | 10:00 実相寺

11:30 吉村家別荘 桜山荘

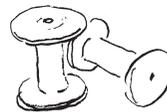
14:30 本庄漁港

16:30 mubenari field 一本杉の麓

楽団参加者数 | 20名

鑑賞バスツアー参加者数 | 計22名

鑑賞者数 | 計212名



動画



ツアーマップ・
機道具図鑑



パフォーマンス会場・風景



実相寺(与謝野町)

ちりめん街道がクランクする位置にあり、養蚕・生糸・織物の守護神とする金色糸神が祀られている。

*日本遺産「丹後ちりめん回廊」構成文化財



吉村家別荘 桜山荘(京丹後市)

丹後ちりめんの発展に尽力した吉村家4代目吉村伊助が、大正8年(1919年)に建築した。羽衣天女伝説のある磯砂山を望む。

*日本遺産「丹後ちりめん回廊」構成文化財



本庄漁港(伊根町蒲入)

昭和40年(1965年)頃、蒲入漁協組合が運営する織物工場があり漁業と織物で栄えた。伊根町筒川に日本遺産『丹後ちりめん回廊』構成文化財「丹後大仏」がある。



mubenari field 一本杉の麓(宮津市)

(天平の古道沿いMAEDA OLIVE FARM内)

籠神社から京都府立丹後郷土資料館まで続く天平の古道からは日本遺産『丹後ちりめん回廊』構成文化財「天橋立」が臨める。



*伊根会場、宮津会場ではゲスト出演として宮北裕美氏が『おりひめの舞』を披露しました。

パフォーマンス参加者(楽団員)の声

- おりものの道具でも、いろいろな使い方があることが分かった。
(与謝野町・～10代)
- がっきのおとがみんなすごくいい音がだせてた。
(与謝野町・～10代)
- 機音による一体感。
(東京都・20代)
- 音を出したり、聞いたり、お客さんに聞いてもらったり。いろんな表現を感じることができました。
(京丹後市・40代)
- 本当に楽しかったです。子ども達もすごく楽しんでいました。言葉で伝えるのではない、楽しいの伝言。ありがとうございました。
(京丹後市・40代)
- 丹後地方の自然の景観の素晴らしさ、織り物の道具の使い方がわかった事。
(兵庫県・40代)
- 回った場所からインスピレーションを得て新しいリズムを奏でる事が出来て、皆様との一体感も味わう事が出来ました。
(京丹後市・50代)
- 4会場とも、丹後にこんな素敵なお店があったんだという発見だった。こういうイベントがないと立ち入る機会がない。
(宮津市・50代)
- 丹後地方の織物文化や街並みを見て、もっと色んな場所に出掛けて体感したいと思いました。
(京丹後市・50代)
- 大きな機屋さんの工場の中を見せて頂き、知っているようで知らなかった地場産業の中身に触れる事が出来ました。
(京丹後市・60代)



鑑賞者の声

- 芸術だけでなく、丹後の歴史や文化に触れられたことは良かった。
(宇治市・30代)
- ガイドさんのお話で色々なことを知ることが出来ました。
(京丹後市・50代)
- ロケーションも素晴らしく、企画もとても面白かったです。ダンスパフォーマンスと楽団員との一体感には感動しました！とても内容の濃い一日を過ごさせていただき、ありがとうございました！
(広島県・50代)
- 一般のワークショップ参加者が、鈴木さんと共に演奏をするおもしろさ。誰でも楽しく演奏を出来る事を、最後のパフォーマンスで共有できて気持ちが高鳴りました。
(京丹後市・60代)
- 使われなくなった機屋の道具たちが楽団にいきを吹き込まれていくようで、それがその地域のあちこちで鳴り響き出して、音気楽団が眠っていた音達を起こしてくれたようでした。
(福知山市・60代)
- 今までに経験したことがないような企画で、内容や地域の気候、環境など、心が休まるツアーでした。
(宇治市・60代)



体験レポート

ワークショップ「はたおと・さぐり」及びパフォーマンス「はたおと・あそび」の全行程に参加したライター稲本朱珠氏による体験レポートをウェブサイト「KYOTOHOOP」にて紹介しています。

レポート執筆

稲本 朱珠 いなもと すず

ライター／コーディネーター。京都市出身。同志社大学社会学部卒業。展示会主催会社やバックオフィス業務などを経て、2020年に京丹後に移住。高校生と地域の人の“やってみよう”を実現していく居場所づくりや京都府北部の中高生の探究活動の伴走に従事。Kaico参加型アートプロジェクトでは、2023年度「町を縫う」出張WSに参加、2024年度「パシャパシャ丹後」は地域サポーター（運営スタッフ）として活動。



はたおと・さぐり
与謝野編



はたおと・さぐり
京丹後編



はたおと・あそび

Kaicoー参加型アートプロジェクト その他の展開

2023年度から始まったKaicoー参加型アートプロジェクト。年度ごとに新たな取組を進める一方で、これまでにかたちづくられた成果物は、今なお各所で活用されています。本年度も、2023年、2024年度の成果物が丹後地域の各所で展示等、広く紹介されました。

『町を縫う』(2023年度)作品展示

■NeoTAN 丹後オープンファクトリー2025

(日時 | 10月3~5日 10:00~17:00 会場 | TANGO OPEN CENTER)

■織センフェスティバル(京都府織物・機械金属振興センター120周年記念事業)

(日時 | 10月4、5日 10:00~16:00 会場 | 丹後・知恵のものづくりパーク)



『パシャパシャ丹後』(2024年度)作品展示

■展示中 | 与謝野町観光協会 / 伊根町観光協会

その他、以下で展示を実施。

TANGO OPEN CENTERファクトリー内 / 丹後海陸交通株式会社(路線バス車両内) / 浅茂川区民会館(文化祭) / 伊根浦発信館おちゃのかか(伊根町民俗資料館) / 京都府丹後広域振興局



総評抜粋

2023年度「町を縫う」、2024年度「パシャパシャ丹後」を含む3年間のKaicoー参加型アートプロジェクトについての総評を美術批評家の野口卓海氏が執筆しました。

『「Kaicoー参加型アートプロジェクト」のあゆみと、残った響き』

町の近景にリズムやイメージを見出し、それらを抽象的な地図へ手作業で翻訳していく「町を縫う」。光と時間の作用による写真を通じて町と再度出会い、多様な参加者が町を見つめ直した「パシャパシャ丹後」。そして、既にそこにずっと在った音を音楽に変えながら丹後半島を巡る「音気楽団」。この一連のKaicoの取り組みは、いわゆる一方向的なアートプロジェクトではなく、地域そのものと地域の人を・営みとクリエイションを・産業とアートを・内と外を、さまざまに繋いでいく中で立ち上がってきたプロジェクトだと言えるだろう。(中略)

Kaicoというアートプロジェクトが残してきたものは個別の感性への刺激と、その連なりによって再度獲得された地域や歴史への新しい眼差しである。企画の根底には、常に丹後半島が既に持っている魅力への深い信頼があったように思う。



総評全文

総評執筆

野口 卓海

のぐち たくみ

詩人 / 美術批評家。写真家・松見拓也とデザイナー・三重野龍とのサイファーのような月刊紙片「bonna nezze kaartz」の発行。主な展示企画として、「人と絵のあいだ」ALL NIGHT HAPS、「神馬啓佑 個展 | 通話中 / I'm calling」山山、「CUT A LOG」VOU/棒など。



中丹地域

京都府北部、丹波山地の山々と日本海に囲まれた中丹地域では、豊かな自然を背景とした歴史と文化が育まれてきました。良質な原料をもとに、和紙や漆の生産は古くから行われており、茶の栽培に適した由良川沿いでは品質の良い茶葉が収穫され今日の京都の文化を支えています。

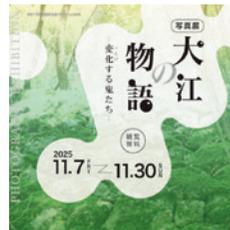
古墳時代には由良川流域を中心に数千基の古墳が築かれ、平安時代には山岳寺院、鎌倉時代には綾部に国宝・光明寺二王門が建立されました。戦国時代には、福知山では明智光秀が福知山城を、舞鶴では和歌等にも通じた文化人・細川幽斎が田辺城を築き、城下町が栄えました。明治時代には、旧海軍の舞鶴鎮守府が舞鶴市に置かれ、赤れんが倉庫群は日本遺産として日本近代化の歩みを今に伝えています。



中丹地域 | 福知山市

大江の物語

へんげ
- 変化する鬼たち -



古くから鬼伝説や神話が息づく福知山市大江町。地域の豊かな自然とともに育まれた鬼伝説をテーマに、カメラを通して地域の魅力を再発見する参加型アートプログラムを実施しました。〈写真ワークショップ〉と〈写真展〉の二部で構成する本プログラムでは、地域で語り継がれてきた鬼伝説や歴史を振り返ることで、その魅力や価値を見つめ直すとともに、写真やカメラを通して新たな視点を獲得し、表現することの楽しさや達成感を体験することを目指しました。〈写真ワークショップ〉で参加者が大江町各所を巡りながら撮影した写真作品は、大江町のほか、福知山市中心部で展開した〈写真展〉で広く紹介しました。

期間 | 2025年8月31日(日)～11月30日(日)

会場 | 福知山市各所

参加・観覧 | 無料(ワークショップは参加費500円・申込制)

参加者・来場者数 | 計14,652名

機材協力 | キヤノンマーケティングジャパン株式会社

主催 | 京都:Re-Search実行委員会(京都府、福知山市、大江まちづくり住民協議会ほか)

〈写真ワークショップ〉

カメラレクチャー講師 | 吉田亮人(写真家)

地域レクチャー講師 | 村上誠(日本の鬼の交流博物館館長)

地域ガイド | 赤松武司(大江地域観光案内倶楽部会長ほか)

地域サポーター | 新井厚子(美術家)

カメラサポーター | TMD合同会社

〈写真展〉

展示デザイン・施工 | 有限会社スタジオアクア

協力 | 一般社団法人福知山地域振興社 / WILLER TRAINS株式会社(京都丹後鉄道)

詳細

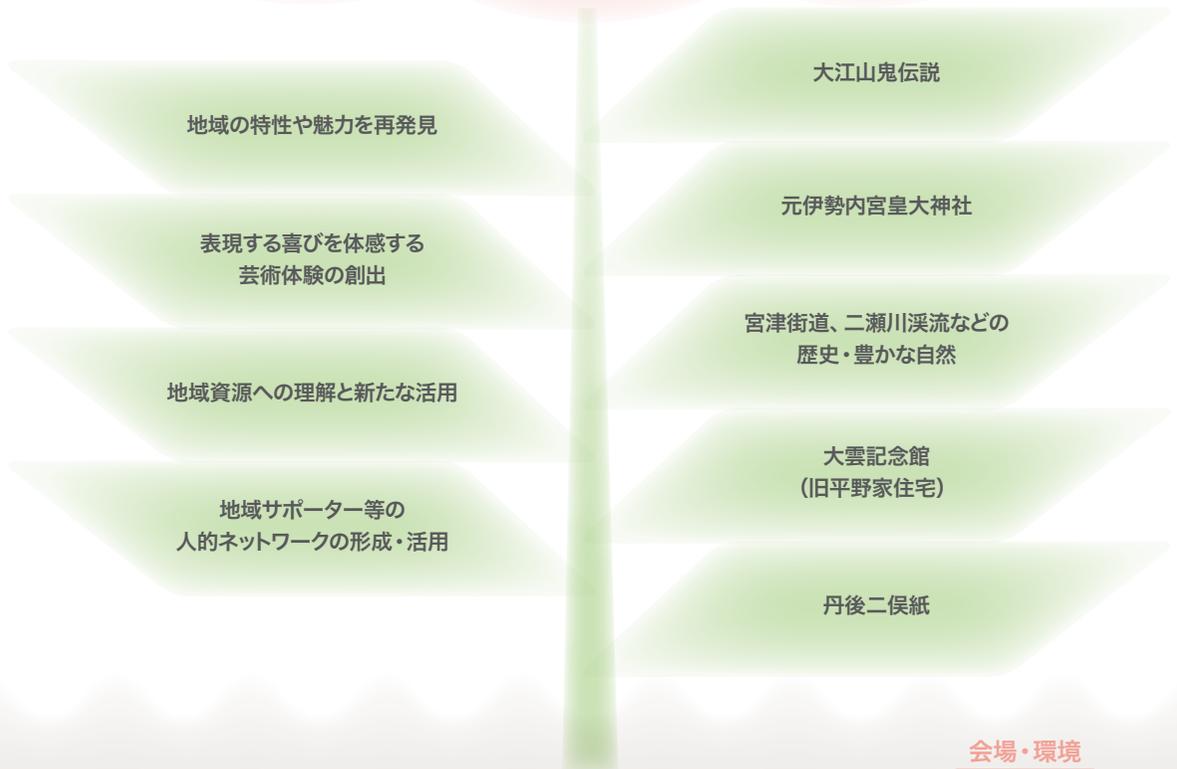


大江山鬼伝説 × 写真表現

誰もが手軽に親しめる写真表現を通して、地域で語り継がれる鬼伝説を軸に、地域の魅力や価値を見つめ直し、発信する参加型アートプログラム。本プログラムでは、写真ワークショップ会場、撮影場所として日本の鬼の交流博物館のほか、元伊勢内宮皇大神社やその周辺にて撮影実習に取り組んだ。

目的

地域文化資源



会場・環境

福知山市大江町

大江町では、鬼伝説や神話が人々の暮らしに息づき地域文化が育まれ、生活を支える養蚕や農業も古くから営まれてきた。昭和中期に一時代を築いた鉱山の跡地に、町の活性化を図って「日本の鬼の交流博物館」を1993年に設立。鬼を観光資源にした町おこしに取り組んでいる。

大雲記念館 (旧平野家住宅) 京都府指定有形文化財

江戸時代から由良川の要衝を任されていた平野家ゆかりの建物。西洋建築技法を取り入れて明治期に建築され、平成期の改修を経て、1998年に京都府指定有形文化財に指定。格式高い和室や茶室、吹き抜けのギャラリーを備え、集いや交流の場として親しまれている。

運営体制

主催・企画・広報等 | 京都:Re-Search実行委員会(中丹部会)

- 京都府(文化芸術課、中丹広域振興局企画・連携推進課)
- 福知山市(文化・スポーツ振興室、大江支所)
- 大江まちづくり住民協議会

アーティスト・講師 ほか



カメラレクチャー講師

吉田 亮人

よしだ あきひと

写真家。1980年宮崎県生まれ。京都市在住。滋賀大学教育学部卒業後、タイで日本語教師として1年間勤務。帰国後小学校教員として6年間勤務し退職。2010年より写真家として活動開始。2023年に写真集出版レーベル「Three Books」を立ち上げる。国内外で受賞、ノミネート多数。



地域レクチャー講師

村上 誠

むらかみ まこと

日本の鬼の交流博物館館長。1959年京都府生まれ。福知山市在住。佛教大学社会学部卒業後、主に福知山市内の小学校教員として36年間勤務。2022年より日本の鬼の交流博物館館長。同館が運営する世界鬼学会事務局長も務める。



地域ガイド

赤松 武司

あかまつ たけし

大江地域観光案内倶楽部会長。大江山連峰トレイルクラブ会長。丹後天橋立大江山国定公園・自然公園指導員としての長年の功績から環境大臣表彰を受賞。古代史研究者として神社や伝承の解説も行っている。



地域サポーター・レポート執筆

新井 厚子

あらい あつこ

美術家。福知山市大江町出身・在住。スペイン・バルセロナで立体、空間芸術を学び欧米や日本各地で地域性のあるテーマのもと参加型アートプロジェクトを多く制作。福知山市でアートスペース「シンマチサイト」を運営し、大江の文化イベント企画にも関わっている。

写真ワークショップ



上：二瀬川渓流にかかる吊り橋「新童子橋」にて
下：「日本の鬼の交流博物館」内外での試し撮り

大江山に伝わる鬼伝説をテーマに、写真ワークショップを開催しました。一時代を築いた^{へんげ}鉱山やその閉山がもたらした変化といった大江の歴史をひも解き、時代とともに変化する鬼の姿と地域に息づく鬼の気配を探りながら、大江ゆかりの神社や古道を巡り、本格的なカメラを使って撮影に臨みました。

参加者は、地域に詳しい専門家や世界で活躍する写真家の講師とともに、大江町の豊かな自然や風景と向き合い、写真家講師による「見えないものを写してみよう」との声かけから、それぞれが感性を研ぎ澄ませて撮影に取り組みました。

会場 | 日本の鬼の交流博物館、大江町各所
参加者数 | 計50名
参加 | 参加費500円・申込制
撮影地 | 日本の鬼の交流博物館、元伊勢内宮皇大神社、宮津街道(新童子橋周辺)、京都丹後鉄道大江駅周辺



ワークショップの流れ



① 地域レクチャー

村上氏による地域レクチャー

② カメラレクチャー

吉田氏によるカメラレクチャー

③ 試し撮り

吉田氏から「上から、下から、ぐっと近づいて」と声をかけられながら博物館内外で試し撮り



④ 撮影実習

大江町各所での撮影実習。見慣れた風景もファインダーを通すと違った視点が開かれることを体験



撮影コース

I 元伊勢内宮コース①

日時 | 8月31日(日)13:00~17:00

参加者 | 小学生親子5組14名

撮影地 | 日本の鬼の交流博物館~元伊勢内宮皇大神社~大江駅周辺



II 宮津街道コース

日時 | 9月6日(土)13:00~17:00

参加者 | 中学生以上一般18名

撮影地 | 日本の鬼の交流博物館~二瀬川溪流~新童子橋~宮津街道



III 元伊勢内宮コース②

日時 | 9月13日(土)13:00~17:00

参加者 | 中学生以上一般18名

撮影地 | 日本の鬼の交流博物館~元伊勢内宮皇大神社



写真展

大雲記念館 (旧平野家住宅) / メイン会場



小学生から大人まで50名の写真ワークショップ参加者による写真作品を大江町及び福知山市中心部の4会場で展示しました。メイン会場の大雲記念館(旧平野家住宅)は全館を使用し、フロアや部屋ごとの特性を活かして写真作品を配置。展示台の一部に大江の手漉き和紙「丹後二俣紙」(京都府指定無形文化財)を設えるなど、大江ならではの展示空間としました。他会場も同様、大江が被写体となった写真作品の一つ一つと、それぞれの空間が一体的かつ際立つ展示にしました。

写真ワークショップ参加者にとっては、写真が大きく引き伸ばされて各会場の空間に現れることで、展示することの達成感や自らの視点を客観的に捉える機会となりました。

会期 | 2025年11月7日(金)～
11月30日(日)

出品者 | 写真ワークショップ参加者50名

出品数 | 115点

写真セレクション | 吉田亮人(写真家)

会場 | 大雲記念館(旧平野家住宅)、

京都丹後鉄道大江駅、

ゆらのガーデン、

市民交流プラザふくちやま

福知山市立図書館 中央館※

※本会場のみ別会期

10月28日(火)～11月9日(日)

観覧 | 無料・申込不要

来場者数 | 計14,578名

出品リスト



会場マップ



展示会場・風景

ゆらのガーデン



京都丹後鉄道 大江駅 2階 展示スペース



市民交流プラザふくちやま
福知山市立図書館 中央館
2階サービスカウンター前

写真ワークショップの様子や写真展出品作品(115点)をまとめた動画を公開



トークイベント

写真ワークショップの講師で、本展出品作品の選定を担当した写真家・吉田亮人氏のほか、地域に精通する登壇者らを中心にトークイベントを開催しました。写真撮影における工夫、創作に込めた意図、各作品の見どころについてなど、登壇者と参加者がともに意見を交わしながら写真表現への理解を深めました。

日時 | 2025年11月29日(土)
13:30～15:00
登壇者 | 吉田 亮人(写真家)、
新井 厚子(美術家)、
神社 孝徳(福知山市大江支所)
場所 | 大雲記念館
参加 | 無料・申込制
参加者数 | 計24名



2階茶室において、大江町有志による「大雲茶会」を開催しました。

時間 | 10:00～15:00
主催 | お茶を楽しむ会

写真ワークショップ

このワークショップは、高性能のカメラを使い、写真表現のコツを学ぶばかりではなく、様々な広がりがあった。地域の歴史や風習などを知るきっかけとなり、人々の営みに目を向け、日常に隠れた美しさを見つける楽しさを知った。そして、それぞれの感性でシャッターを切り、他の人の写真を見ることで、また新たな発見につながり、普段の価値観を越えた場での対話を生み出す。

私は大江で生まれ育ち、この辺りのことはわかっているつもりだったが、今回、カメラを持って歩くことで、見過ごしていた風景がたくさんあったことに気づき、発見の連続であった。カメラのレンズというもう一つの目を通して、日常に潜んだものに光をあてる時、まわりの風景も違った表情を見せる。写真ワークショップ参加者が、この地で何を見て、何を感じ、その視線の集結で何が生まれてくるのか興味尽きない。一枚、また一枚と撮られたイメージは、歴史が層をなす地面を耕し、物語を芽吹かせてくれるようだ。夏のワークショップが終わり、いつもの景色に色を添え、また物語は始まる。

写真展

秋になり少しずつ山が色づき始めた頃、夏に行われた写真ワークショップの展覧会が始まった。

展示作品は、ワークショップで歩いた何気ない風景の一部を撮影したものが多く、いつもと異なる角度でカメラを向け、距離感を工夫し、光に目を凝らして、身近なものや道端の見慣れたものの美しさを捉えている。そんな大江の風景を切り取った写真が展示空間に開いた窓のように見えた。

その土地の中で何を魅力的なものとして捉えるかは、それぞれの文化的背景や価値観によって異なる。また、その状況の中にすぼり入り込んでいると日常の中で光るものに気が付かないことがある。アーティストが俯瞰的にものを見て、また別の視点によるキュレーションで、見慣れた風景を捉え直して表現することで、身近にある美しさに気づくことがある。その面白さを今回の展示で改めて感じた。

鬼の気配を由良川の眺めのある大きなお屋敷で感じ、駅を背景としたドラマを想像し、お城の見える町の風景に残る歴史を思い描く。それぞれの場面の余白にあるものを考えながら、^{へんげ}変化するものに想いを寄せる。

レポート執筆

新井 厚子

あらい あつこ



写真ワークショップ
レポート全文



写真展
レポート全文



ワークショップ参加者の声

- 何げない風景にも目をやってみたら面白い部分がたくさんありました。とーっても楽しかったです。またやりたいです!! あと、他の人の写真を見てそうぞうするのも楽しかったです。(京都市・12才)
- 初めて本格的なカメラに触れることができて非常に良い経験をありがとうございました。今日たくさんのことを学ぶことができたので実生活に生かしていきたいです。大江の魅力を再確認することができて有意義な時間でした。(福知山市・～10代)
- 普段とはちがった目線で町を見ることができました。思っていた以上にかがが多くて、そのかがをどうひょうげんするかむずかしかったです。(福知山市・20代)
- 目に見えないものをとるということで、色々な視点でゆっくりと撮影できて楽しかったです。(福知山市・50代)
- ファインダーの向こう側にある写らないモノを写せる様になればと思っていますが、難しいです。吉田さんに技術的、気持ち的な撮影の事を教わったのでこれからは活かしたいです。(福知山市・50代)
- 講師の方に言葉をかけて頂き感激しました。今後の撮りに参考になったのでとても勉強になりました。(綾部市・60代)

写真展来場者の声

- 鬼って怖いイメージがあったけれど、意外とたくさんいてあいくるしくてももしろかったです。あと、風景を見て「ここはどんな鬼がいるんだろう」と想像するのものが良かったです。(京都市・～10代)
- 自分の作品が展示されていたのもあって、とてもうれしい気持ちになりながらいろんな作品を見ることができました。作品展示の仕方もとても素敵で、ずっと見ていたいような空間でした。(綾部市・～10代)
- 写真がまるで鬼の視点のように見え、姿は見えなくてもその存在を感じられる展示でした。(福知山市・20代)
- 写真閲覧を目的に来館しましたが、展示場所(大雲記念館)が素晴らしく、写真の良さをより際立たせていると思いました。案内スタッフの方が親切に説明をして下さり、ありがとうございました。(福知山市・50代)
- いろいろな視点で大江の魅力がぎりとられていたと思いました。(舞鶴市・50代)
- 写真展によって鬼伝説に興味を持った。深く調べてみようと思います。子どもたちがスマホではなく一眼を持って郷土の魅力を掘り起こしている点が素晴らしいと思います。(南丹市・50代)

- 来館して展示物からとても勉強になりました。これまで知らなかった郷土の歴史にふれることができました。(舞鶴市・60代)
- 紅葉もきれいで、展示されている部屋とのマッチングがすてきでした。その中で大江の風景のさまざまな写真が光っていました。沢山の人に見てほしいです。(大江町・70代)
- 何げない風景の中にも物語はあるのだな。(綾部市・70代)

トークイベント参加者の声

- この活動後、写真の撮り方が変わって、電車だけでなく景色も撮るようになってよかったなと思いました。ほかの人の作品も見て、いろいろな視点から撮るのもありだし、さまざまなものを組み合わせてみるのもおもしろいなと思いました。(綾部市・～10代)
- 同じ所で写真をとっても、色々な見方、表現がありたのしかったです。(福知山市・50代)
- ひとつのテーマに沿って撮ると、50人50様だなと思い、新しい発見がありました。(福知山市・50代)



南丹地域

「京都丹波」とも呼ばれる、京都府中部の南丹地域は、大都市に近接し、京都市内への通勤通学者も多く、高い利便性を有しながらも、豊かな森林や田園風景に恵まれた「森の京都」の魅力が詰まった地域です。古くから京の台所を支えてきた食の宝庫でもあります。京阪神地域等へのアクセスの良さを背景に、高い技術力を有する多種多様なものづくり企業が立地し、環境やものづくり、建築、医療等様々な専門分野にわたり特色ある大学や大学校等が集積していることから、産学公連携による人材育成、食や農の分野における産業イノベーションも期待されています。



まねてまねぶ伝統芸能 まねっこ浄瑠璃



京丹波町の人々が暮らしの中で受け継いできた民衆による伝統芸能「和知人形浄瑠璃」。本プログラムでは、アートユニット・山成研究所(辰巳雄基、うー)の2人の視点を通じてその魅力に迫るリサーチ、ワークショップを行い、集大成としてパフォーマンス及び体験型展示を実施しました。和知人形浄瑠璃を構成する人形のつくりや感情を豊かに表現するための所作、三味線や太夫の語りについて紐解くほか、私たちの身近にある人形にも着目するなど、さまざまな角度から和知人形浄瑠璃を見つめ直しました。

期間 | 2025年4月26日(土)～10月25日(土)

会場 | 京丹波町各所

参加・観覧 | 無料(ワークショップ『まねっこ三味線』のみ参加費1,000円)

参加者・来場者数 | 計1,699名

主催 | 京都:Re-Search 実行委員会(京都府、京丹波町ほか)

企画・制作・プログラム進行 | 山成研究所(辰巳雄基、うー、アシスタント:中井梓太郎)

まねっこ三味線制作 | 秀野祐介(家具と陶 やがて)

からくり屋台制作 | 松本成弘

パフォーマンス出演 | ワorkshop参加者7名、からくり屋台スタッフ4名

グラフィック制作 | フォック チン

写真撮影(パフォーマンス・展示) | WONG Chung Wah

動画撮影・編集(パフォーマンス) | Luan Banzai

協力 | 和知人形浄瑠璃会 / 道の駅「和(なごみ)」 / 画材循環プロジェクト「巡り堂」 / 有限会社ひのでやエコライフ研究所
連携事業 | 京丹波町20周年記念 / 第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波記念 / Music fusion in Kyoto

詳細



和知人形浄瑠璃 × まねっこ

芸事が「まねる」ことを通して培われてきたことに立ち返り、和知人形浄瑠璃の人形遣いや三味線とその演奏、太夫（語り）の所作をまねし、ゆかりのモノや道具に触れたり、作ってみたりして和知人形浄瑠璃を体感するプログラム。客席から公演を観るだけでは知り得ない和知人形浄瑠璃の特徴やその価値・魅力に迫る。

目的

地域の文化芸術に
主体的に接する機会の創出

和知人形浄瑠璃の魅力
再発見・再認識

地域の伝統芸能の
理解者・協力者の創出

地域のアーティスト等の発掘

地域文化資源

和知人形浄瑠璃

和知人形浄瑠璃会の会員

地域で活動する
アーティストやサポーター

伝統芸能常設館

会場・環境

わち 和知

京丹波町の旧3町（丹波町、瑞穂町及び和知町）のひとつ。山々や由良川などに囲まれた豊かな自然環境が伝統芸能を育んできた。「和知四大芸能」といわれる、和知人形浄瑠璃、和知太鼓、小畑万歳、和知文七踊りが地域住民によって受け継がれている。

なこみ 道の駅「和」

京丹波町にある道の駅。夏は鮎、秋は黒大豆や栗など四季折々の食、地域の魅力を発信している。隣接する道路情報センター内には伝統芸能常設館や展示スペースがあり、地域の伝統芸能や文化団体・サークルの表現の場、地域の文化に触れる場として親しまれている。

運営体制

主催・企画・広報等 | 京都:Re-Search実行委員会(南丹部会)

- 京都府(文化芸術課、南丹広域振興局企画・連携推進課)
- 京丹波町(教育委員会社会教育課)

アーティスト・講師 ほか

企画・制作・プログラム進行

山成研究所

やまなりけんぎゅうじょ

亀岡市を拠点に、身の回りの小さなものごとについて、
子どもやおとなたちと一緒に発見し考える場をつくる、
辰巳雄基とうーによるアートユニット。



辰巳 雄基
たつみ ゆうき

(一社)きりぶえ理事・「丹波亀吾郎」
店主。
著書に『箆袋でジャパニーズチッ
プ』、共著に『小屋の本』がある。



うー

こどものものづくり科学実験教室
主宰。



ワークショップ講師

和知人形浄瑠璃会

わちにんぎょうじょうるりかい

和知人形浄瑠璃の保存・継承に
取り組む。和知オリジナル演目
ちよろろうこえせつどのほまれ
『長老越節義之誉』をはじめとし
た演目を定期公演等で上演。



まねっこ三味線制作

秀野 祐介

しゅうの ゆうすけ

家具と陶 やがて。木曾の上松技
術専門学校にて木工を学び、北欧
家具修理、無垢家具工房等を経
て独立。南丹市日吉町にて、オー
ダー家具を製作。



© 松本すく

からくり屋台制作

松本 成弘

まつもと なりひろ

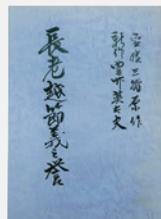
写真や立体造形などの手法でも
のづくりを行い、好きな事、気にな
る事、少しでも気になった事
を行う。京丹波町在住。

和知人形浄瑠璃とは

江戸時代末期に大迫村(京丹波町大迫)で始まったとされる。おおぶりに人形を一人で操る「一人遣い」は和知ならではの特色。当初は、小型の粗末な張りぼて人形数体を操り、農閑期の娯楽として親しまれていた。昭和12年(1937年)以降は舞鶴などから人形を購入。現在、和知人形浄瑠璃会が保存・活用する50数個の首の中には、工の誉れ高い「天狗屋久吉」(天狗久)の作品も含まれる。京都府無形民俗文化財。

ちよろうこえせつぎのほまれ 『長老越節義之誉』

旧和知町ほどす主村に残る物語から制作された和知人形浄瑠璃オリジナルの演目。全四段。江戸時代、和知町と美山町にまたがる長老ヶ岳を舞台にした藤田猪平いへいとその妻・お紺こんの物語。年貢の減免を訴えたことで捕えられ落命した夫の遺志を果たすべく、二人の子を連れ長老ヶ岳を越えていくお紺の姿は涙を誘う。昭和59年(1984年)に発表、平成11年(1999年)に再編される。現在は和知人形浄瑠璃会及び地元の中学生に受け継がれている。本プログラムでは、全四段のうち最も見どころとなる第三段「子別れの段」の一部を取り上げてワークショップを展開した。



リサーチ

山成研究所が、和知人形浄瑠璃会の会員取材し、人形浄瑠璃を構成する人形、三味線、語り(太夫)について探りました。保管されている人形を写真に記録・調査したり、三味線の繊細な作り、登場人物の心情や情景を声だけで巧みに表現する太夫の技術などに触れると、それぞれの奥深さ・見どころ・聞きどころなどが浮かび上がってきました。また、身近な人形にも着目して、南丹地域の子ども達を中心に、大切にしている人形についてインタビューを実施。個々の人形との思い出や物語に耳を傾けると、人形への愛着とともに日常の暮らしの中での人形と人の関わりが見えてきました。

これらリサーチで得たことをオリジナルの新聞『まねっこくらぶ』にまとめ、「人形」、「三味線」、「太夫」をテーマに3号発行し地域に配布、誰もが閲覧できるようにWEBサイト「KYOTOHOOP」でも発信しました。さらに、ワークショップのプログラムに昇華しました。



期間 | 2025年4月～10月

地域 | 京丹波町、南丹市、亀岡市

取材先 | 和知人形浄瑠璃会、

和知小学校、和知中学校、

南丹地域2市1町の地域住民

成果物 | 新聞『まねっこくらぶ』全3号

(人形編、三味線編、太夫編)



新聞



ワークショップ

『まねっこ三味線』



京丹波町の木や身近な素材を組み合わせて、My三味線を制作。完成した三味線で奏者の所作をまねながら、『長老越節義之誉』の一節の演奏を体験しました。気に入った棹と撥を選んでやすりがけを行い、棹や胴、糸巻など主に5つのパーツを組み立てるところから始まった三味線制作。制作を通じて、三味線の繊細さや音が出る仕組みを知り、愛着も深まりました。演奏体験では、「いろはにほへと」で示された三味線の略図や慣れない譜面・奏法に苦戦しながらも、人形浄瑠璃特有の心情を表す音色や三味線を奏でる楽しさを味わいました。

日時 | 2025年9月28日(日)
10:00 ~ 15:00
会場 | 京丹波町役場(本庁)
参加者数 | 15名



レポート



『まねっこ人形』



卓球ラケットの形をした合板や布を使って『長老越節義之誉』に登場するお紺の人形をつくり、人形遣いの所作をまねながら、その動きに挑戦しました。参加者は、首をつくる際には悲しい表情を想像し、人形を操る際には女性を表現する動きの特徴を学ぶなど、自身の心と体をつかって人形浄瑠璃への理解を深めました。また、和知人形浄瑠璃の人形保管庫も見学し、普段は目にすることができない貴重な人形の数々に触れました。

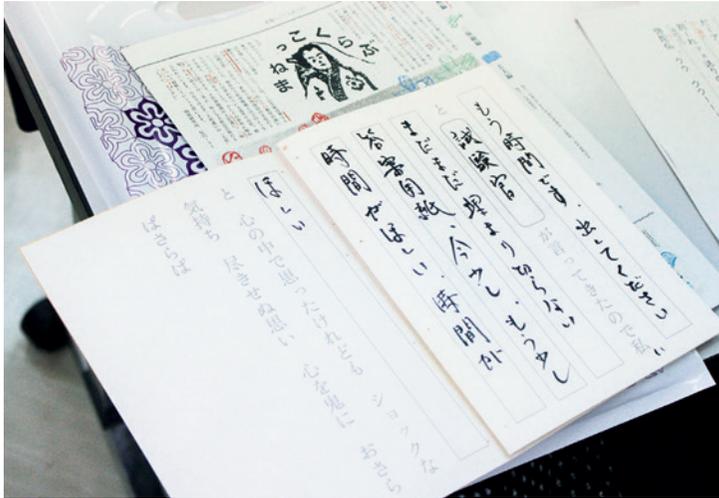
日時 | 2025年10月12日(日)
10:00 ~ 12:00
会場 | 大迫区公民館
参加者数 | 8名



レポート



『まねっこ語り』



『長老越節義之誉』の一節をなぞり書きし、糸綴じをするなどして、オリジナルの床本(台本)を制作しました。同演目の場面に合わせて物語を創作し、義太夫節風に抑揚や間を意識して語り、人形浄瑠璃特有の音遣いや太夫の所作をまねして、語り挑戦しました。太夫の声に改めて耳を傾けてみると、登場人物の演技分けや独特の抑揚、豊かな表現の魅力を感じられました。

Pickup

3つのワークショップの中でも、特に多様な視点で対象を紐解いた『まねっこ語り』では、以下の工程の中で参加者の興味を引き出すさまざまな“入口”を設け、太夫の語りへの理解を深めました。

① 床本の文字をなぞり書き、語る

和知人形浄瑠璃会の『長老越節義之誉』の床本をモチーフにした冊子型のワークシートを配付。同演目の聞きどころとなる一場面の台本を筆ペンでなぞり書きしながら、語ってみました。

② 物語をつくり、語る

同演目の悲哀に満ちた場面で印象的な台詞「おさらば、さらば」になぞらえて、各自が「おさらば」したいエピソードをもとに物語を創作。抑揚や間を意識して、作った物語を声に出して語ってみました。それぞれのエピソードに場がなごみ、参加者の緊張がほぐれ、次第に声量も大きくなりました。

③ 所作をまねて語る

見台に床本を置き、正座をし、太夫の所作をまねて『長老越節義之誉』の一場面の語りに挑戦。登場人物の心情や情景を想像しながら語ると、声に奥行きが生まれました。さらに、三味線の音色も加わり、物語の臨場感や太夫・三味線奏者の息遣いを感じ取りました。

④ 床本を糸で綴じる

最後に糸で綴じて、オリジナルの床本の完成。各自持ち帰りました。

日時 | 2025年10月19日(日)

10:00 ~ 12:00

会場 | 京丹波町和知ふれあいセンター

参加者数 | 10名



レポート





パフォーマンス・体験型展示『まねっこ浄瑠璃大行列』

三味線、人形、太夫(語り)を学んだワークショップ参加者が集い、制作した三味線や人形、床本を手に、息を合わせてパフォーマンスを披露しました。この日のために考案された和知人形浄瑠璃の3要素をテーマにした3台の「からくり屋台」とともに、和知のオリジナル演目『長老越節義之誉』の一場面を皆で上演し、“三業一体”の難しさ、面白さを体現しました。

「からくり屋台」は来場者も実際に動かすことができ、子どもから大人までが「からくり屋台」を通して『長老越節義之誉』の一節を奏で、人形を動かすなどして、舞台鑑賞とは異なる新たな手法で和知人形浄瑠璃の世界に親しみました。

さらに、和知人形浄瑠璃の人形2体を特別に展示し、人形を間近で見る場をつくりました。

からくり屋台

和知人形浄瑠璃の構成要素である、三味線・人形・太夫(語り)をテーマに3台を考案・制作。それぞれの屋台に繋がった自転車をこぐと、その動力をもとにからくりが動き、和知人形浄瑠璃の要素を体感できる仕掛け。

日時 | 2025年10月25日(土)

・からくり屋台(体験型展示)

10:00 ~ 16:00

・「まねっこ浄瑠璃大行列」

(パフォーマンス)

11:30 ~ 12:00

会場 | 道の駅「和」なごみTERRACE

パフォーマンス出演者数 | 11名

来場者数 | 1,655名

記録動画



パフォーマンス・体験型展示

「まねっこ浄瑠璃大行列」は、道の駅「和」の野外広場「なごみTERRACE」にて開催された。野外のオープンスペースは、ホールステージのように観客と演者が一体となる“集中の場”を作ることは容易ではない。実際には、からくり屋台の存在が非日常の雰囲気を生み出し、遊び心を感じさせる空間を形成することで、来場者との距離感を和らげる役割を果たしていた。

からくり屋台は、人形浄瑠璃を構成する3つの要素「三味線」「人形」「語り」ごとにそれぞれ用意されており、いずれも自転車のペダルをこぐことで動力を得る仕組みである。風変わりな仕掛けが施された屋台で体を使い遊ぶように楽しみながら、人形浄瑠璃の世界を覗き見る体験型展示だ。木製のからくり屋台が和知の自然景観と調和しながらも異彩を放つ様子は大変印象的でもあった。

パフォーマンスの見せ場は、まねっこ三味線・まねっこ人形・まねっこ語りの各ワークショップ参加者と、3種のからくり屋台が息を合わせた共演であった。披露された『長老越節義之誉』の一節は、本来は悲劇的な場面であり、通常の上演では観客が涙するところである。しかしこの日、会場は輪になった観客たちの笑顔と笑い声に包まれていた。それは、からくり屋台の動きやタイミングが思うように合わない瞬間さえも含めて面白さとして受け止めながら、一つのを形にしようとする前向きな雰囲気が会場に満ちていたからであろう。試行錯誤の過程を会場全体で見守り、分かち合うことによって、あたたかな一体感が確かに生まれていた。

和知の自然の中に響く、“まねっこ”の三味線や語りの音色、青空の下で演じる“まねっこ”人形遣いたち、それを囲む人々の輪。その情景は、和知人形浄瑠璃が生まれた当初にあったであろう、地域と芸能が一体となる原風景を思い起こさせるものであった。今後もこのような取組を重ねていくことで、和知人形浄瑠璃は「受け継がれる文化」としてだけでなく、「共に作り続けられる文化」として、地域の中に息づいていくことが期待される。



写真撮影：凧

レポート執筆



凧
りん

和太鼓奏者、「森の京都 DMO」文化観光サポーターとして文化と土地、人と人をつなぐ。鈴鹿市文化事業団評議員。京丹波町在住。

レポート全文



ワークショップ参加者の声

〈まねっこ三味線〉

- 全く知らなかった三味線の構造から音出しまでいちどにわかった。
(亀岡市・50代)
- (三味線、人形浄瑠璃について) 上演の時、語りだけではなく、三味の音にも関心を持って聴きたいと思います。
(京丹波町和知・70代)

〈まねっこ人形〉

- 人形を持たせてもらい持ち方、重さや動かし方が実際にわかり、大変さと楽しさがわかった。
(南丹市・40代)
- 八木町に住んでいるので身近に感じた。いい意味でもともとあったものと集まってきたもので工夫をされてきた様なので、変化してきたものと感じ、変わってきた文化として親しみが湧きました。
(南丹市・40代)

〈まねっこ語り〉

- 意外と難しくすぐ慣れはできなさそうで、プロの人は相当苦労していると分かりました。
(京丹波町・～10代)
- 知っていたけど、見たことがなかったので、一部分だけでも見れて、太夫さんの実際の指導が受けてよかったです。
(綾部市・70代)



パフォーマンス・体験型展示の参加者・来場者の声

〈出演者〉

- ワークショップ参加者からくり屋台が一体となってパフォーマンスをできたことがとても良かったです。
(京丹波町・40代)
- 人形浄瑠璃の面白さを身近な人に、特に町内の人に伝えていく。
(京丹波町・40代)
- 地域への教育は十分にされていると思いました。浄瑠璃会の方のご負担のできるだけ少ない形で、今回のような体験型のイベントは継続した方が良いと思います。
(南丹市・50代)

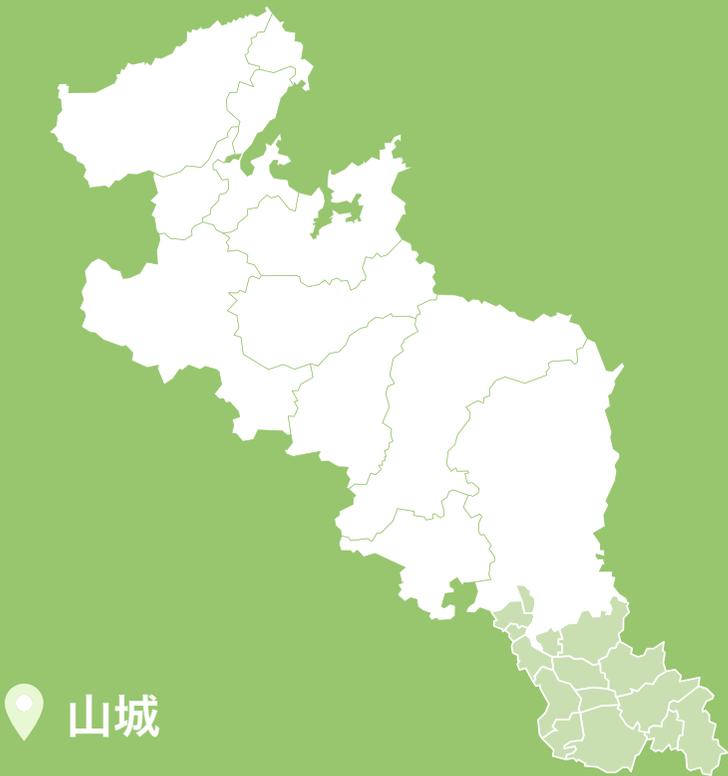
〈来場者〉

- 少しずつ三味線、語り、人形のテンポがそろっていくのが良かった。ふだんはあまりできない体験ができるイベントでとても楽しかったです。
(南丹市・40代)
- からくりがとても素晴らしいです。集まってこられる人々も楽しそうでした。私も楽しかったです。
(亀岡市・50代)



山城地域

京都府の南部に位置する山城地域は、京都・奈良・大阪を結ぶ歴史的文化的文化地域です。奈良時代の平城京と平安時代の平安京の両文化の影響を受けながら発展し、『万葉集』をはじめ、『源氏物語』や『平家物語』にも縁の深い地域で、歴史的文化的文化遺産が数多く残されています。また、暮らしや地域産業に結びついたお茶文化など、山城ならではの豊かな文化に恵まれています。けいはんな学研都市など、企業や研究施設が集まり最先端の科学技術が生み出されるエリアと、茶畑景観など日本の原風景ともいえる豊かな文化資源を持つ農山村エリアが混在する多様な地域特性を有しています。



山城

宇治市 / 城陽市 / 向日市 / 長岡京市 / 八幡市 /
京田辺市 / 木津川市 / 大山崎町 / 久御山町 / 井手町 /
宇治田原町 / 笠置町 / 和束町 / 精華町 / 南山城村

山城地域 | 笠置町、和束町、南山城村

みんなで歌おう！ 合唱プロジェクト



京都府最南部の豊かな自然に囲まれた笠置町・和束町・南山城村（相楽東部地域）で、“歌”を通じて人と人がつながるプロジェクトを実施しました。関西を代表するテノール歌手・竹内直紀氏、山城地域で活躍するソプラノ歌手・東志奈氏を講師に迎え、気軽に歌を楽しめる体験編からスタート。その後の本編では、参加者がクラシックやオペラの合唱曲を練習し、連携事業「やましろミュージックキャンプ(YMC)」※の参加者とコンサートで共演。世代や地域など多様な背景の参加者が交流し、心を一つにして音楽を創り上げる体験を共有しました。

※やましろミュージックキャンプ(YMC)

相楽東部地域の豊かな自然の中で、弦楽器を演奏する子どもたちが合宿形式でプロの演奏家による指導を受け、キャンプ最終日にコンサートを行う事業。

期間 | 2025年6月7日(土)～7月27日(日)

会場 | 笠置町産業振興会館

和束町健康福祉交流センター cha nova

南山城村文化会館やまなみホール

参加・入場 | 無料

参加者・来場者数 | 計555名

主催 | 京都:Re-Search実行委員会

(京都府、笠置町、和束町、南山城村、相楽東部広域連合、相楽東部未来づくりセンターほか)

講師 | 竹内直紀(テノール歌手)、東志奈(ソプラノ歌手)

写真撮影 | スタジオ記シ

詳細



相楽東部地域 × 合唱

自然豊かな相楽東部地域で、地域住民をはじめとする参加者がプロの声楽家の指導を受け、表現者として音楽に取り組みながら世代や地域を越えたつながりを創出。さらに、参加者がコンサートに出演することで来場者も音楽をより身近に感じ、地域に新たな文化的活力を生み出す取組。

目的

合唱を通じた
文化的体験機会の創出

YMCへの
地域住民の参加促進

地域の音楽ホールを拠点
とした文化芸術振興

地域文化資源

地域の複数のコーラス団体

やましるミュージックキャンプ
(YMC)

やまなみホール

会場・環境

相楽東部地域・やまなみホール

笠置町・和束町・南山村からなる相楽東部地域は、木津川流域の豊かな自然やお茶などの産地として知られる。地域の文化拠点となるやまなみホールは、建築家の黒川紀章氏により設計され、やまなみシルバーコーラスをはじめとする地域の音楽団体の育成など、地域住民が主体的に表現活動に参加する環境が整っている。

運営体制

主催・企画・広報等 | 京都:Re-Search実行委員会(山城部会)

- 京都府(文化芸術課、山城広域振興局企画・連携推進課)
- 笠置町(希望のまち推進課) ● 和束町(まちづくり応援課) ● 南山城村(企画政策課)
- 相楽東部広域連合 ● 相楽東部未来づくりセンター

アーティスト・講師 ほか



合唱指導

竹内 直紀

たけうち なおき

テノール歌手。島根県出身。京都市立芸術大学音楽学部管・打楽(トロンボーン)専攻卒業。卒業後声楽に転向。同大学院声楽専攻修了。これまで約200公演を越えるオペラに出演。数々のコンクール入賞。上方オペラ工房、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー、びわ湖ホール四大テノールメンバー、関西二期会正団員。現在、BS日テレ「BS日本・こころの歌」でおなじみのコーラスグループ「フォレスト」メンバーとして活動中。島根県浜田市PR大使。



© tadashi_hayashi

サポート指導

東 志奈

ひがし しな

ソプラノ歌手。京都府南山城村出身、木津川市在住。大阪音楽大学音楽学部声楽学科声楽専攻卒業。ピアノを岡久美子、木村直美、声楽を岡久美子、加藤禮子、寺松光子、小松直美、Eugenia Garza Alemanの各氏に師事。現在は演奏活動とともに後進の指導を行う。おてんば娘とわんぱく坊主を育てる2児の母。エチュードミュージックアカデミー京田辺音楽教室講師、レジュイール音楽教室講師。木津川市音楽芸術協会会員。

歌唱サポーター



原田 美砂

はらだ みさ

ソプラノ歌手。
関西芸術振興会・関西歌劇団準団員



古屋 彰久

ふるや あきひさ

テノール歌手。
びわ湖ホール声楽アンサンブル・
ソロ登録メンバー



浦野 裕毅

うらの ひろき

バリトン歌手。
大阪ゲヴァントハウス合唱団等で活動

ピアノ伴奏

【体験編ワークショップ】



植松 さやか

うえまつ さやか

京都市立芸術大学非常勤講師

【本編ワークショップ】



綿野 仁音

わたの ひとね

京田辺市音楽家協会会員

体験編ワークショップ

誰もが気軽に参加できる体験編は、プロの音楽家である講師の指導により、歌うことの楽しさを皆で共有する場として開催しました。

第1部では、歌うために必要な身体の使い方を学び、第2部では、様々な楽曲を情感豊かに歌い、本編課題曲のヘンデル作曲「ハレルヤ」の冒頭にも挑戦。第3部は、講師2名による歌唱披露の後、講師と参加者が共演し、楽しい雰囲気の中で体験編を締めくくりました。

日時 | 2025年6月7日(土) 14:00~16:00

会場 | 和東町健康福祉交流センター

cha nova

参加・対象 | 無料・小学生以上

参加者数 | 70名

プログラム

- 第1部 声を出す前に
～歌うための身体の使い方
- 第2部 実際に歌ってみよう！
 - ・世界の国からこんにちは
 - ・春の小川
 - ・われは海の子
 - ・紅葉
 - ・雪
 - ・七つの子
 - ・花の街
 - ・さんぽ(「となりのトトロ」より)
 - ・上を向いて歩こう
 - ・ふるさと
 - ・ハレルヤ冒頭 ※本編課題曲
- 第3部 ミニコンサート
 - ・ヴェルディ：歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」
歌：竹内直紀(テノール)、東志奈(ソプラノ)
 - ・フィナーレ！みんなで歌って踊ろう！
デンツァ：「フニクリフニクラ」



参加者の声

- 知らない歌を知れて良かったです。また、竹内先生や東先生の歌を聴きたいです。
(木津川市・～10代)
- おもしろく楽しい指導のおかげでとても楽しく歌うことができました。
(京都府内・30代)
- 「ハレルヤ」を(本編でも)歌ってみようと思いました。
(南山城村・80代以上)
- 発声の仕方など勉強になりました。以後、参考にがんばります。
(和東町・80代以上)

体験編レポート



本編ワークショップ



4回にわたり開催した本編では、課題曲「ハレルヤ」と「乾杯の歌」を中心に、コンサート出演に向け集中して練習しました。この2曲は、音程を取ることに加え、外国語の歌詞や4声部が異なるタイミングで歌い出すなどの難しさがありました。一方で、練習音源や個人練習のポイントをまとめたレジュメ、歌唱サポーターの加入、そして講師2名の丁寧な指導を通じて、和やかな雰囲気の中で楽しみながら練習を重ね、コンサートに向け参加者の一体感が深まりました。



日時・会場 | 2025年

6月28日(土) 15:00~17:00

笠置町産業振興会館

7月5日(土) 15:00~17:00

和束町健康福祉交流センター cha nova

7月19日(土) 18:00~20:00

笠置町産業振興会館

7月25日(金) 18:00~20:00

南山城村文化会館やまなみホール

参加・対象 | 無料・小学生以上

参加者数 | 54名

内訳 | ソプラノ18名、アルト21名、テノール7名、バス8名

※歌唱サポート3名含む



本編レポート

参加者の声

- 近くで熱心に合唱をやっている人がこんなにたくさんいることを知れて良かったです。(南山城村・40代)
- 楽しく優しい指導により、初めて集まったメンバーでも練習を重ねる度に合唱が出来上がっていくことが楽しかったです。(木津川市・60代)
- 全く知らない人の集まりでも歌を歌うことを通して一つになれることを知りました。(奈良県・60代)
- 楽しい学びは意欲につながると思いました。(笠置町・70代)
- いろいろな地域から来られた方と友達になれて良かったです。(木津川市・70代)

<課題曲>

ヴェルディ：歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」

ヘンデル：オラトリオ『メサイア』より

「ハレルヤ」

岡野 貞一：「ふるさと」



コンサート



本編ワークショップを経て、やましろミュージックキャンプ(YMC)の弦楽アンサンブルと共演するコンサートの日を迎えました。開演前のロビーでは、YMCの子どもたちによるロビーコンサートも行われ、合唱参加者や来場者が演奏に耳を傾け、やまなみホールは地域の音楽文化が息づく場として活気に包まれました。本番では、弦楽器の温かな音色と4声部の合唱が見事に調和し、参加者はYMCの子どもたちと一つの音楽を作り上げ、共に奏でる喜びを体験しました。

日時 | 2025年7月27日(日)
14:00開演/13:00~受付
会場 | 南山城村文化会館
やまなみホール
参加・対象 | 無料・年齢制限なし
来場者数 | 253名
出演 | YMC参加者・講師、
合唱プロジェクト参加者・講師
主催 | やましろミュージックキャンプ
実行委員会

[連携事業]

やましろミュージックキャンプ(YMC)

弦楽器を演奏する子どもたちが相楽東部地域に集まり、やまなみホールでプロの弦楽器奏者の指導を受け、最終日にコンサートで演奏を披露する2泊3日のキャンプ。2025年で4回目の実施となり、子どもたちの音楽教育や地域文化振興の役割を担っている。



【YMCサマーコンサート/プログラム】

■第1部

コレルリ/ジェミニアーニ編：合奏協奏曲第12番『ラ・フォリア』
レハール/南出信一編：金と銀
アメリカ民謡/南出信一編：森のくまさん楽器紹介風
ボッテシーニ：弦楽五重奏曲八短調より第4楽章
(アンコール) ラジオ体操

■第2部

プッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」(★)
ヴェルディ：歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」(★)
ホルスト：セントポール組曲
ヘンデル：オラトリオ『メサイア』より「ハレルヤ」(★)
(アンコール) 岡野貞一：「ふるさと」(★)

(★) 合唱参加者出演曲



参加者の声

- 一つの舞台でみんな揃って盛大に歌えたことが楽しくて、人と人との連携が大切だと思いました。
(南山城村・～10代)
- 日々子育てに追われていますが、芸術に触れ、楽しんで歌えて元気が出ました！若いエネルギー、人生の先輩方と共演できたことが大切な思い出です。
(木津川市・30代)
- YMCのコンサートを毎年聴きに行っていたので、同じステージで歌えて大満足でした。
(木津川市・70代)
- YMCの子どもたちの演奏と一緒に歌えて嬉しかったです。
(木津川市・70代)
- オペラの入り口に素人で立たせてもらっていいのかと感動しました！
(笠置町・70代)
- 家族にあきれられる程、毎夜、練習しました。歌い終え、自分なりに達成感を得られました。
(南山城村・80代以上)

来場者の声

- 弦楽器、合唱、来場者が参加する曲など、様々なプログラムがあり、音楽の幅広さを再発見する機会となりました。
(綾部市・20代)
- オペラをライブで聴いたのは初めてで、声量の凄さにまず驚き、感動しました。地域や世代を超えて、音楽をみんなで楽しみましようという取組がやっぱり良いですね。
(城陽市・60代)
- コンサートで都会的なセンスを感じた上に、「ふるさと」をいつになく感じられて幸せな気分になりました。
(南山城村・70代)



コンサートレポート



講師コメント

竹内直紀氏 (合唱指導)

練習では参加者に曲の難しさを感じさせず、本番の着地点が見えることを意識して指導しました。その結果、みんなで一つになって歌おうという気持ちが生まれ、本番は素晴らしい完成度で、指導者としても感動しました。



東志奈氏 (サポート指導)

参加者が毎回家で練習して来てくれて、前向きに歌に向き合う姿が印象的でした。適度な緊張の中、良い形で本番を迎え、いつもどおり楽しんで歌えたので、本番後も、参加者の歌うことへの意欲の高まりを感じました。



講評者インタビュー

やまなみシルバーコーラス(南山城村)の合唱指導者として、長年にわたり地域の文化振興を担ってきた高原和子氏にインタビューしました。

●相楽東部地域を舞台にした合唱プロジェクト実施について聞いた時、どんなことを考えましたか？

「地域の人たちが表現者として文化芸術の場に関わり、地域の中で“つながり”を作る」というコンセプトに共感しました。一方で、普段はのんびりと合唱に取り組む地域の人たちが、「ハレルヤ」を歌ってYMCと共演することができるのか、そもそも参加者が集まるのか、そんな不安もありました。

●どうすればプロジェクトが成功するかを、共に前向きに考えてくださいました。

この地域には、木津川やまなみ国際音楽祭^(※)で素晴らしい音楽が奏でられた頃から音楽文化を受け入れてきた歴史があります。音楽の力で人が集まり、地域の人たちが普段はできない体験をすることに意義を感じ、何より、プロジェクトとして面白そうという気持ちがあったので、地域のコーラスメンバーに声をかけるなどの協力をしました。

(※) 1993年から財団法人南山城村文化財団の主催にて開催された、海外ソリストと国内外のプロ奏者によるクラシック音楽祭。2004年からは主催を南山城村教育委員会に移行し、2007年に第15回をもって幕を閉じた。

●このプロジェクトは、地域の人たちにとってどのように映っていたのでしょうか？

地域の人を募って、竹内氏や東氏を講師に迎えて練習を行い、YMCの弦楽アンサンブルと共演したり、竹内氏や東氏が本番で歌う場面もあったりと、プロジェクトとしては盛りだくさんだと思いました。課題曲の「ハレルヤ」や「乾杯の歌」は、素人が簡単に歌える曲ではありません。それを4回の練習で仕上げるという点が非常にスリリングです。とは言え、楽しんで参加することが大前提ですし、何より、合唱もYMCも素晴らしい講師に恵まれていたので、きっと成功するだろうと思っていました。



●ワークショップを見に来ていただきましたが、参加者の様子で印象に残ったことはありますか？

慣れない曲を練習している過程では、「どこで入ったらいいかわからん」、「口パクでいくわ」と冗談を言いながらも、家では自主的に練習している人がほとんどで、この挑戦にみんな楽しんで向き合っているようでした。合唱歴の長短や様々な人生経験を持つ人々が集まる中で、「歌って楽しいね」という言葉を聞いた時は、歌を通して生きる力を感じる機会になっていると感じました。

●本番のコンサートはこのプロジェクトに関わる全ての人が力を出し切り、かけがえのない時間となりました。コンサートは地域にとってどのような場になったのでしょうか？

普段は隣近所の付き合いをしている人たちが地域のステージで真剣に歌う、そんなコンサートが必要だと思います。しっかりと練習をして、本番でドキドキしながらも演奏を聴いてもらうということは、私が指導するシルバーコーラスでも心がけていますが、今回のプロジェクトとの大きな違いは一緒に取り組んだ人の違いです。合唱では、笠置・和束・南山城と普段は違うコーラスグループで歌っている人たちが共演し、それに加えて、京都市内や舞鶴市、他府県からの参加者がいました。さらに、YMCの子どもたちや素晴らしいプロの演奏家たちとも音楽を共有しました。



南山城村の景観を背景にロビーコンサートを楽しむ
YMC参加者・合唱参加者・来場者

地域の中で多様な人たちが出会い、交流し、音楽を通してつながる、そのための場として、本番の日のやまなみホールは今までも増して活気に満ちていました。

相楽東部地域の音楽文化の拠点であるやまなみホールで、地域の人たちの日常とつながる文化的な取組を守りながら、地域の人たちを笑顔にしていくなかで、そのような機会をこれからも絶やすことなく活動を続けていきたいです。

講師者



高原 和子

たかはら かずこ

木津川市音楽芸術協会会長。木津川市社会教育委員会委員長。ソプラノ歌手として地域の舞台に立ちながら、やまなみシルバーコーラス(南山城村)や木津川市少年少女合唱団、公民館サークル「歌おう心のうた」(木津川市)の指導者として、長年に渡り地域の音楽振興に取り組んでいる。



コンサートの出演者に拍手を送る来場者

アウトリーチ

次世代向け派遣事業

京都府では、子どもを対象とした文化芸術体験機会を提供する取組「文化の心次世代継承事業」として、教育機関等への派遣型アウトリーチを実施しています。

「学校・アート・出会いプロジェクト」として幅広いジャンルの専門家を派遣するとともに、京都の人々の暮らしに根差し、生活の中に息づいてきた「茶の湯」や「いけばな」を体験する「学校・茶の湯／いけばな・出会いプロジェクト」を着実に展開しています。

次世代向け派遣事業(文化の心次世代継承事業) | アート

学校・アート・ 出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒及び教員に対し、質の高い文化・芸術を体感する機会を提供することにより、児童生徒の豊かな心を育成するとともに、京都の文化芸術の振興と次世代への継承を図ることを目的とし、文化芸術体験事業に携わる専門家・実演家等を派遣しました。

対象 | 京都府内(京都市立を除く)の

小中学校・義務教育学校・府立特別支援学校・府立高等学校

※高等学校は「地域の伝統文化継承プログラム」のみ対象

期間 | 2025年5月30日(水)～2026年3月10日(火)に随時実施

実施校数 | 小学校 40校/中学校 11校/義務教育学校 1校/

府立特別支援学校 10校/府立高等学校 4校

実施件数 | 計71件(丹後5件/中丹9件/南丹16件/山城37件/京都市内4件)

参加者数 | 計7,344名(見込み)

派遣講師 | 文化芸術団体、クリエイター、実演家 等

2025年度の 開講ジャンル一覧

古典芸能 | 落語・邦楽・能楽・狂言・囃子・日本舞踊
伝統工芸 | 草木染・ロウケツ染・竹工芸・陶芸
伝統文化 | 香道・着物・書道・煎茶道
美術 | 絵画・日本画・造形・ステンドグラス
音楽 | 音楽基礎・合唱・歌劇(オペラ)・わらべ唄・
楽器(和太鼓、二胡、アフリカンドラム)
ダンス・演劇 | ダンス・パントマイム・演劇・バレエ
劇 | 人形劇・影絵芝居
その他 | 映像・建築・道具(民具)

体験プログラム

1回のプログラムから、複数回にわたる体験授業まで、授業時間内で実施します。内容は、担当教員と講師やコーディネーターが相談し、子どもたちの状況や実施目的に応じて決定します。

対象 | 小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校
実施件数(校数) | 小学校24件(24校)、中学校11件(10校)、
義務教育学校1件(1校)、
特別支援学校18件(11校)

地域の伝統文化継承プログラム

祭りや郷土食など、地域の伝統文化を受け継ぐことを目的に、地元の保存会などと協力し、複数回継続した活動を行うプログラムです。

対象 | 小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校・
高等学校
実施件数(校数) | 小学校1件(1校)、中学校1件(1校)、
高等学校4件(4校)

合同鑑賞プログラム

地域の文化施設やホールで行うプログラムです。近隣の学校と一緒に、能や舞台芸術などの合同鑑賞会を実施します。

対象 | 小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校
実施件数(校数) | 小学校9件(9校)

教員向けプログラム

教員を対象にワークショップを行うプログラムです。教科単位の研修や校内研修などで、教材開発や指導に活用してもらうことを目的に実施します。

対象 | 教員(小学校・中学校・義務教育学校・
特別支援学校・高等学校)
実施件数(校数) | 1件(1団体)

地域とともに文化探求・発信プログラム

地域に根づいた文化を調査・体験し、発表するまでを計画的に実践するプログラムです。

対象 | 小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校
実施件数(校数) | 小学校6件(6校)

邦楽 | 日本の伝統文化を知ってほしい ～日本の伝統楽器をみて、きいて、ふれてみよう～



京田辺市立松井ヶ丘小学校 × 京都三曲協会

箏、三絃、尺八の演奏に耳を傾けるのは4年生の94人。馴染みのあるアニメ曲の演奏もあり、邦楽がぐっと身近なものに感じられました。演奏体験では、苦戦しながらも「さくらさくら」が弾けると喜びも一入。体験を通じ日本の文化を大切に受け継いでいきたいという思いが芽生えた児童もいました。

煎茶道 | 煎茶道を知ろう



京丹後市立網野南小学校 × 一般社団法人全日本煎茶道連盟

5年生25人が煎茶道を体験。普段取り組むことのない複雑な作法に戸惑いながらも、熱心に講師の話に耳を傾け、客人役や亭主役を務めました。また、産地の異なる煎茶を飲み比べ、味の違いを体験。地元産が一番おいしいとの感想もあり、地域への愛着が増すきっかけにもなりました。

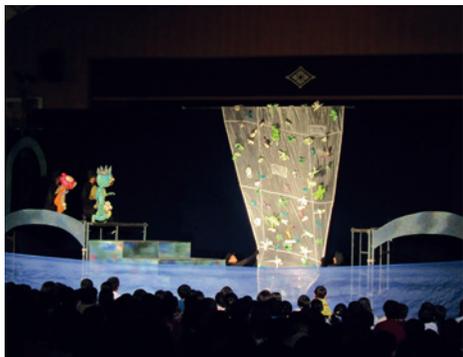
能楽 | 能を通して知る日本の心



伊根町立伊根中学校 × 公益社団法人能楽協会京都支部

能楽の体験に1～3年生の33人が挑戦。教科書に沿ったプログラムだったので、生徒たちも興味津々です。「事前学習で映像を見たときは言葉も理解できなかったけど、生の体験や鑑賞を通じて、迫力を感じワクワクした」という声も。能楽に対する学びをより深めることができました。

人形劇 | とどろヶ淵のメツケ



福知山市立大正小学校 × 有限会社人形劇団京芸

全校児童335名で人形劇を鑑賞しました。「リアルな動きに感動して涙が出た」という児童の感想があったように、その世界に入り込むほど夢中になった人形劇は児童たちの感性を刺激し、鑑賞後は感想を交換するため活発なコミュニケーションが生まれました。

囃子 | 日本のクラシックを知ろう!

～能の囃子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)を通して知る日本文化～



京都府立向日が丘支援学校 ×

一般社団法人京都能楽囃子方同明会

日本の伝統的な楽器やリズムを知るため、小学部の34人がお囃子を鑑賞、体験。大鼓や小鼓、太鼓を叩くだけでなく、お囃子に合わせて掛け声を発声したり、手拍子をしたりして、能の文化にも触れました。普段は集団が苦手な児童も、太鼓の音につられて一緒に活動することができました。

地域の伝統文化継承プログラム | 里山文化



南丹市立美山中学校 ×

一般社団法人京都・美山・北村かやぶきの里保存会

1年生23人が校区内にある重要伝統的建造物群保存地区を訪れ、茅葺の家や民俗資料館を見学。地域に伝わる伝統的な野草茶づくりを体験し、地域が有する歴史や文化を知るだけでなく、これから先へ自分たちがふるさとを守り伝えることを考える時間となりました。

担当教員の声

一子どもたちの普段とは違う一面を 見ることができた

- 初めて使用する素材や道具に触れ、普段は集中力が長続きしにくい児童も活動に没頭する姿が見られた。
(小学校・ステンドグラス)
- 本物の歌を聞いて、心から感動する様子が感じられた。歌唱の指導後驚くほど歌声が変容した。
(小学校・合唱)
- 時間が足りないくらい夢中で取り組んでいた。指導者の声掛けがなくても、自分から取り組もうとする姿が見られたり、作った帽子を嬉しそうにかぶったりして生き生きとした表情をみることができた。
(特別支援学校・造形)
- 集団を避けがちな児童が能の音楽に引きつけられ、集団の中で活動することができた。
(特別支援学校・囃子)
- 地域の方々等、校外の人たちと交流する様子が見られた。
(高等学校・地域文化)

一教員の気づきにつながった

- もし美しく仕上がらなくても「それも個性であり、面白い作品である」という捉え方をされていたので、児童の自信や意欲につながった。今後の図画工作の指導の参考になる点だと感じた。
(小学校・ステンドグラス)
- 今後の学習発表会で、児童に発表方法を工夫させたいと考えている教員が多い。
(小学校・人形劇)
- 普段できないと思っていた活動であってもできることがあり、日々の指導観を見直すきっかけとなった。
(特別支援学校・建築)

一自由記述

- 長くお世話になっているが、本物の狂言に触れる機会としてとても貴重な時間になっている。相当印象に残っているようで、卒業してからもこの日のことを話す児童がいるほど。
(小学校・狂言)
- それほど複雑ではない申請で、こんなにも感動的に、子ども達に本物を触れさせることができ、大変よかった。これまでは、このような事業があったことを見落とし、チャンスを逃していたように思う。一度活用すると「ぜひ今後も活用してみたい」となった。こうした情報を校内でどのようにどんなタイミングで紹介するかが大切であると実感した。今後につなげたい。
(小学校・煎茶道)
- 改めて狂言の面白さを狂言師さんから教えていただき生徒の自発的な笑いや重度重複(障害)の生徒も笑っていたので、600年前から引き継がれている伝統芸能を体感していたと思う。いい体験だったと思う。
(特別支援学校・狂言)
- 普段の授業では取り組めないような大規模の創作活動に取り組めたことは児童にとっても貴重な経験として残ったと感じる。また、創作活動の中でやり方や何を描くか等、細かく提示せずに取り組んだことで、準備された素材を見て児童が感じたままに表現する姿を引き出すことができた。
(特別支援学校・造形)

学校・アート・
出会いプロジェクトの
メニューの詳細は、こちら▶



<https://jisedai.kyotohoop.jp>

学校・茶の湯・ 出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒に対し、学び舎である学校等で、日本の生活文化である「茶の湯(茶道)」体験を実施するプロジェクトです。

茶の湯を体感する機会を提供することにより、日本の道徳観や美的感覚、生活を彩り他者をもてなすための創意工夫を学ぶことで、子どもたちの豊かな心や創造性を育むとともに、先人から受け継がれてきた文化の心を次世代に継承することを目的に実施しました。

対象 | 京都府内(京都市立を除く)の小中学校・義務教育学校・府立特別支援学校・
教育支援センター

期間 | 2025年6月10日(火)～2026年3月6日(金)に随時実施

実施校数 | 小学校 32校/中学校 7校/義務教育学校 1校/府立特別支援学校 8校
教育支援センター 3センター

実施件数 | 計56件(丹後7件/中丹8件/南丹12件/山城25件/京都市内4件)

参加者数 | 計1,778名

主な派遣流派 | 表千家/裏千家/武者小路千家/藪内家

派遣講師数 | 主講師33名

協力 | 京都府教育委員会

茶の湯体験外部コーディネーター | 稲本朱珠/北村英之/崎川真璃絵/佐藤和佳子/
特定非営利活動法人こみねっと

茶の湯設え事例

座礼



- 畳敷きや絨毯敷きの部屋を活用
- プレイマット等を敷くことで対応可能

立礼



- 家庭科室、多目的室等を活用

茶の湯体験の流れ

① 導入

教室に足を踏み入ると、掛け軸や茶釜が目に入り、いつもの教室とは違う雰囲気漂います。子どもたちの表情は自然と引き締まり、非日常の空気を感じ取っている様子。

学校の先生から、茶の湯を通じておもてなしの「こころ」を学ぶという学習のねらいが語られ、茶の湯の世界に誘われます。



② 講義

茶の湯講師から、茶の湯の歴史や背景、道具それぞれに込められた意味、その「こころ」を学びます。教科書で学んだ千利休が、この京都の地で何をした人だったのか、具体的なイメージが湧き、茶の湯文化への理解を助けます。

【テーマ例】

- お茶の伝来から今に至るまでの茶の湯の歴史
- 「和敬清寂」「一期一会」など禅語の意味
- 茶室の設えや道具類について



③ 実演・解説

講師による亭主、客の作法の実演を観察します。
双方相手への思いやりを大切にし、難しい所作の一つ一つに意味があることを知ります。
場合によっては学校の先生が客人となることも。先生の緊張した様子を見て、反対に子どもたちは緊張がほぐれます。



④ 体験活動

いよいよ自分たちの体験の番です。先ほど講師に見せてもらったお手本を思い出しながら、お菓子とお茶をいただきます。
お菓子は季節を表現した見た目のものもあり、また、お茶碗には様々な模様が描かれています。それらを興味深く観察し、余すことなく吸収する子どもたち。
お茶の味の感じ方は人それぞれ。でも先ほど聞いたお話で、込められたところを知ると、心なしか苦みを和らいで感じる子ども。



他に以下の体験を実施する学校もありました。

- 児童生徒がペアを組んで、互いにお茶を点て、もてなし合う。
- 児童生徒が自分で点てたお茶を飲む。
- 児童生徒が学校の先生をもてなす。



⑤ まとめ

感じたことを発表し合ったり、疑問に思ったことを講師に質問したりと、茶の湯への理解を深めます。
「お茶の道具はどこで買えるの?」といった質問は、日常に茶の湯を取り入れたいという気持ちの顕れ。体験が始まる前と比べて、茶の湯との距離が縮まっていることを感じます。



茶の湯体験を基軸に自らおもてなし企画を行った学校もあります。



綾部市立東八田小学校(5、6年生)

講師 | 南久美子(表千家)

時間 | 2コマ(1時間30分、休憩含む)

教室 | 家庭科室



この経験を活かして将来茶道などをして子どもたちに教えてあげて、日本の伝統文化を将来に繋げていきたいです。(児童)

1回保育園でしたことはあったけどその時は知らないことがたくさん知れ、本格的にでき楽しかったです。この体験をきっかけにお客さんが来てもしっかりとお茶を出したいとおもいます。(児童)

長岡京市立長岡第六小学校(4年生)

講師 | 芳野敬弥(武者小路千家)

時間 | 2コマ(1時間35分、休憩含む)×2クラス

教室 | 多目的室

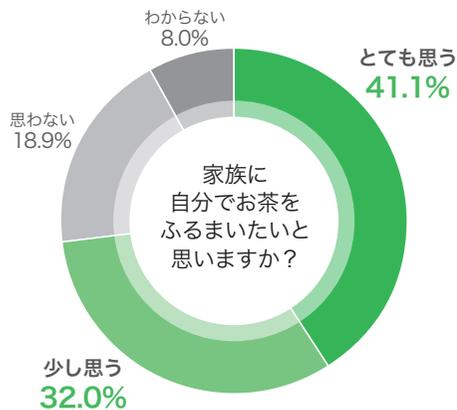
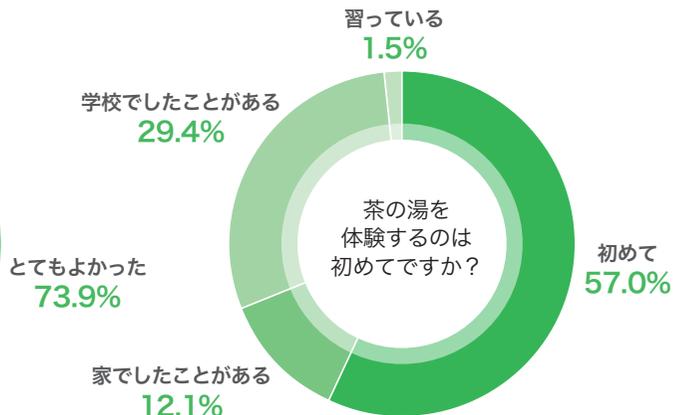
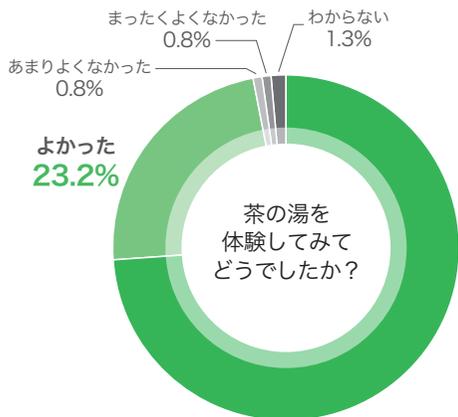


様々な柄のお茶碗に意味が込められていると知ると、大切に、清潔に、上品に使おうと思ったし、使い方が難しくても先生が優しく教えてくれたので美味しいお茶とお菓子がペアの人にさせて良かったです。(児童)

日常生活の中で少しの工夫をすることで「和の文化」を味わえることを実感できました。(学校)

茶の湯アンケート結果

児童生徒(回答者数: 1,047名)

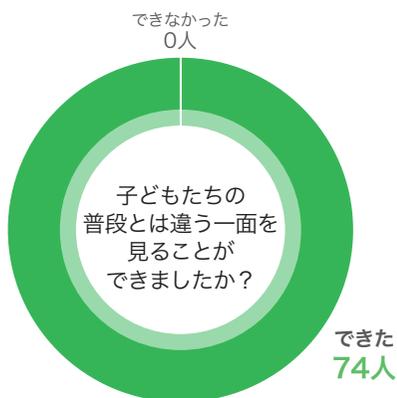


●何が心に残りましたか?(複数選択式)

1. お茶をいただいたこと(904名)
2. 先生の話が分かりやすかったこと(531名)
3. お茶を点てる体験ができたこと(503名)

自分も家族をおもてなししてみたいという気持ちが湧いたようです。

教員(回答者数: 74名)



■茶器を選ぶときに、自分が好きなものを選ぶのではなく、相手の子に「どれがいい?」と聞いていた。相手の立場に立って考えることが自然とできていたこと。(小学校)

■普段は、落ち着きが足りないと心配していた生徒たちが、前のめりでお手前を見学していました。つい反抗をしてしまいがちな生徒が先生たちに自ら、お点前をほどこしてくれました。感激しました。(中学校)

■初めて体験する茶道に参加しづらい児童もいることが想定されたが、お茶菓子やお抹茶体験を通じて自然と表情も柔らかくなり児童ら同士美味しい・嬉しい・楽しい気持ちを伝え合いながらいきいきと活動する姿がたくさん見られた。(特別支援学校小学部)

児童生徒の感想

■私が茶の湯体験をして感じたことは、人をもてなす時の大切さが分かりました。実際に自分がお客さん役になり、友達が点ててくれたお茶を飲むと、真心が詰まった温かさや抹茶の苦味とお菓子を食べた後の甘味が体に染み渡り、「ああ～茶の湯ってこんなに心と体が温まる伝統なんだな」と、とっても思いました。
(小学6年生)

■色々なお茶の作法や、やり方を教えてもらってとても勉強になりました。説明もわかりやすく、「みて覚える」「おもてなしの心」「ゆずる気持ち」などをしっかり学びました。茶の湯ってなんだか難しくて遠い存在かなと思っていたのですが、この体験で茶の湯の魅力を知りとても面白いなと思いました。
(小学6年生)

■抹茶味の〇〇は食べたことがあるけれど本物の抹茶を飲んだのは初めてなので楽しかったです。同じ抹茶でも色々な種類があるそうなのでもっと知りたいです。柄を避けて飲むことが礼儀と知ってすごいと思いました。
(小学6年生)

■最初は苦いのが心配で、緊張していたけど、味わっていたらどんどん癖になっていって、とても楽しかったし、美味しかったです。そして、心が安らいだ感じがして、とても安心できました。今度は、自分で点てた抹茶をのんでみたいですよ。
(小学6年生)

■和菓子が食べられなくても代わりにのものを用意してくれたり、和菓子を一口食べた時も「大丈夫？」と聞いてくれたり色々してくれてありがたかったし、人の温かみを感じることができました。優しい口調で話たり、説明したりしてくれるのでとても安心できました。
(小学5年生)

■最初は、お茶が苦そうであんまり飲む気がしなかったけど、自分で点てる体験もできてとても美味しかったです。それに、心の落ち着きなど、お茶を点てる以外のことも、学べていい経験になりました。
(小学5年生)

■幼稚園の頃に1回やった事があったけど、また経験が出来てとても良かったです。
(小学6年生)

■自分の作ったお茶と先生が作ったお茶がぜんぜんあじがちがうくてすごいなと思いました。ぼくのは苦いお茶だったけど先生のは苦くなくて、おいしかったです。
(特別支援学校中学部)

教員の声

■茶の湯の活動を行った後、抹茶茶碗を作る活動を行うので、お茶を点てるためのお茶碗作りにつなげることを考えながら茶道を体験することができたのは、大変学びが深まりました。
(小学校)

■茶の湯は特別なものだと思っていましたが、もてなしたい心があれば、誰でもできると先生がおっしゃっていたことが印象的でした。普段は気にかけていない、一つ一つの所作を丁寧にするという意識をもつことができました。京都の文化を体験できる、とても良い機会となりました。
(小学校)

■専門的な知識を持たれている方からの指導は、児童だけでなく私自身も大変興味深く学ばせていただき、よい機会となりました。お茶の歴史やお作法はもちろん、そこに込められた思いや他のもの事にも通ずる考え方について、児童の様子を見ながら丁寧に指導していただき大変感謝しております。
(小学校)

■気のせいかな？(児童生徒が)支援員に対しても尊敬の意をもって接してくれている感じがする。
(教育支援センター)

■学んだ作法を実際にこなすことができたり、自分でお茶を点てることができたりといった体験が、児童生徒の自信に繋がった。
(教育支援センター)

学校・いけばな・ 出会いプロジェクト

京都府内の児童生徒に対し、学び舎である学校等で、日本の生活文化である「いけばな(華道)」体験を実施するプロジェクトです。

いけばなの歴史・文化を学びながら、瑞々しい花々を生ける機会を提供し、日本の道德観や美的感覚、生活を彩り他者をもてなすための創意工夫を学ぶことで、子どもたちの豊かな心や創造性を育むとともに、先人から受け継がれてきた文化の心を次世代に継承することを目的に実施しました。

対象 | 京都府内(京都市立を除く)の小中学校・義務教育学校・府立特別支援学校・
教育支援センター

期間 | 2025年6月27日(金)～2026年2月5日(木)に随時実施

実施校数 | 小学校 7校 / 中学校 9校 / 義務教育学校 1校 / 府立特別支援学校 8校

実施件数 | 計32件(丹後2件 / 中丹6件 / 南丹5件 / 山城18件 / 京都市内1件)

参加者数 | 計1,305名

協力 | 京都府教育委員会 / 京都いけばな協会 / 京都生花株式会社

いけばな体験の流れ

① 導入

机の上には水盤(浅い器)が置かれ、いつもと違う教室の雰囲気、児童生徒たちは浮足立ったり、緊張した面持ちだったり、様々な様子です。そうした中で、まず学校の先生から、今日は何を体験するか、何を意識してほしいかといった導入のお話があり、いけばなの世界への扉が開きます。



② 講義

いけばな講師から、いけばなの歴史や背景、自然とのかわり方、大切にされている「ところ」を学びます。社会で学んだ歴史が、講師の具体的な話と結びつき、より学びが深まります。

【テーマ例】

- 伝統文化としての華道とその歴史
- 草花の生命
- 使用する花の特徴や扱い方
- 節句、生活の中での草花



③ 実演・解説

体験で使用する花材や道具類、体験の注意点などを説明します。

講師が作品を生ける様子をリアルタイムで観察。さっきまで何もなかった空間に、あっという間に華やかないけばな作品が誕生します。

流派毎に異なる型や、花材同士のバランスのとり方などといった、調和のとれたいけばな作品を作るためのコツも伝えます。



④ 体験活動

実際にいけばなを体験します。全員に同じ花材が配られても、出来上がる作品は、高さ、生ける位置、角度などで、それぞれの個性が出た、唯一無二のもの。最初は何をしたらいいのか分からない子も、いつの間にか作品作りに集中しています。また、頭の中のイメージを具体化しようと、静かだった前半とは打って変わって、講師に積極的に質問する姿も多く見られます。



⑤ 作品撮影・鑑賞

体験終了後に花材を剣山から抜く必要があるため、その前にできあがった作品を写真で残します。また、このときに他の人の作品と自分の作品を比べて、その違いを認識し、それぞれの良さを認め合う様子が見られます。



⑥ 自宅での生け方の説明

使った花材は家に持ち帰り、命ある花を最後まで大切に作る「こころ」を感じてもらいます。剣山の代わりに吸水性スポンジを配るので、自宅に剣山がなくても、花が息づく空間を再現できます。



舞鶴市立和田中学校(1~3年生)

講師 | 田中美奈甫(嵯峨御流)

時間 | 2コマ(1時間50分、休憩含む)×3学年

教室 | 美術室



友達の作品を見たら自分の作品とは違って面白かった。(生徒)

お花を生けることで、温かい気持ちや、作法など様々なことを学びました。
集中して取り組み、ほっとした。(生徒)

生徒たちは花と向き合う時間を通じ、自然への感謝や「調和」「静寂」といった日本的な美意識を体感することができた。(学校)

京都府立井手やまぶき支援学校(中学部2年生)

講師 | 宮本花抱(甲州流)

時間 | 75分

教室 | 作業教室

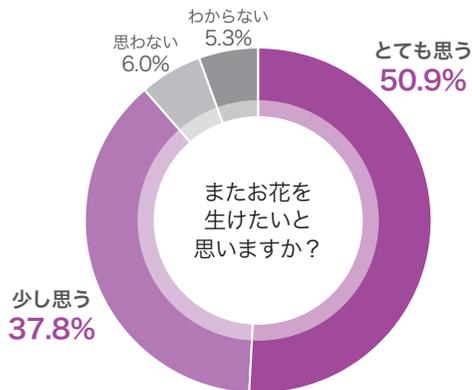
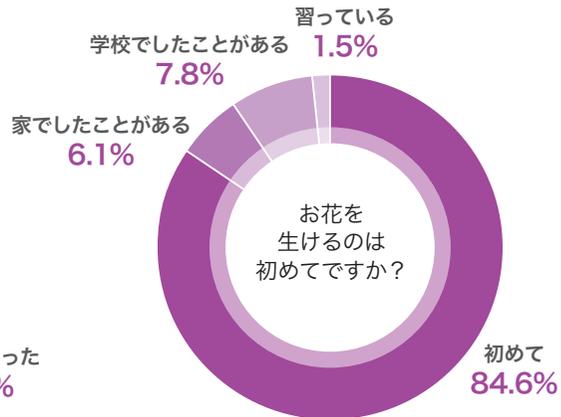
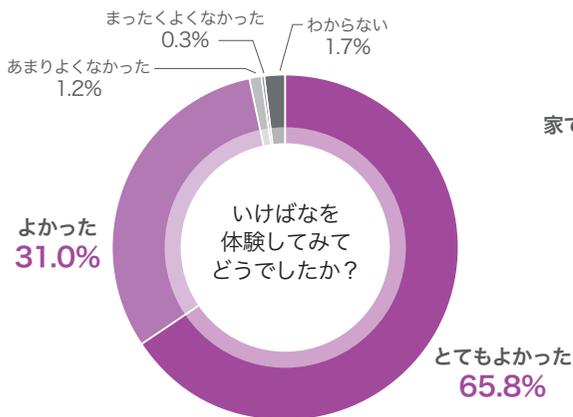


おばあちゃんに花器や剣山を借りて、持って帰った花を家でもいけました。(生徒)

集中が難しい生徒も、花と向き合って集中していた。普段使うことのない花ばさみや剣山を用いることで、道具を安全に扱う学習もできた。(学校)

いけばなアンケート結果

生徒 (回答者数: 868名)

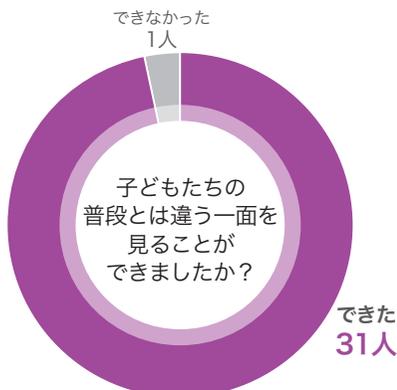


●何か心に残りましたか? (複数選択式)

- 1.花を生けることに集中できたこと (494名)
- 2.花を美しく見せるコツを教えてもらったこと (423名)
- 3.同じ花材でも友達と違う作品ができたこと (382名)

初めての経験を前向きに捉えて取り組んでくれたようです。

教員 (回答者数: 32名)



- 学力(認知能力)とは関係なく各々の個性が生かすことができ誰もが認めあう場となった。(中学校)
- 生徒がいけばなを仕上げた後、具体的なアドバイスをいただき、生徒にとっては新たな視点での気づきにつながる場面が多くあった。(中学校)
- なかなか集中することが難しい生徒も、花と向き合っ集中することができた。(特別支援学校 中学部)

児童生徒の感想

■初めて花を生けてみて、植物は人間と同じで生きていると聞いたことがあったけど、クラス全員がそれぞれやさしそうとか、元気そうとか一人一人の生け花から感じる事ができて、本当に生きているんだと実感しました。毎日なにかのお世話とかをしたことがなくて、めんどくさいと思う自分がいたけど、家を出るとき、帰るときに(持ち帰った花を)目を見ると、きれいでかわいくて元気をもらうので、その美しい姿を長く保てるようにしたいと思いました。

(中学2年生)

■花の種類がたくさんあって色華やかな花ばかりでした。花を生けて先生にチェックしてもらったときに、「これを前に持ってくる」と花が『こんにちは』しているみたいになるよ」と言われて、その言葉がすごく心に残りました。

(中学2年生)

■なかなか触れる機会がない日本の文化に触れることができて充実した2時間でした。いけばなはただお花をいけるだけではなくて集中力が高められたり、四季を感じることができるといことがわかりました。室町時代から始まり現在まで途切れることがなく、受け継がれてきたいけばなはそれだけ人々にとって大切な物だったのだらうと思いました。

(中学2年生)

■その植物が持つ本来の特徴を生かして自由に構成することの面白さ、「正解のない美の世界」の奥深さに触れることができました。今では生け花が「自分自身と向き合う大切な時間」となっている。日本の伝統文化に触れることができ、私の生活に彩りが加わった。命を大切に、花のようなきれいな心を持ち続けたいと思った。

(中学1年生)

■いけばなを体験する前は「やっても意味ない」とか思ってたけど、体験してみると意外と楽しいなと思った。同じ種類の花でも全く同じ形の花はないことを感じる事ができた。ゲームとかをするのも楽しいけど、静かに集中していけばなをするのもいいなあとと思った。いけばなの先生が「花には表情がある」という言葉が心に残った。

(中学2年生)

■最初はやったことがないし間違えたらどうしようなどの不安や緊張がありました。だけど最初に先生方がいけばなについての歴史や背景を学べて、昔の人の気持ちを自分も感じてみたいと思いました。ハサミの持ち方は意外で、親指を曲げて残りの指で下を支えるのがとてもきれいな持ち方だと感じました。切るときもななめに(刃の)奥で切ると音もきれいで、華道の魅力が学べました。今まではそんなに花をじっくり見て向きや大きさを気にしたことがなかったけど、いけばなを体験して花が同じでも表情がちがうと分かりました。周りのものを見てみても、みんな全然違って、同じ華道をしていても個性があるとわかりました。先生方のアドバイスがとても助かりました。またいけばなをやりたいです。

(中学2年生)

■いけばなをしてみても気づいたことは、今抱えている悩みとか、嫌な気持ちや、考え事を全て忘れて、いけばなだけに集中することができ、すごく楽しかったです。

(中学2年生)

■おばあちゃんが前までいけばなをしていて、見たことがあり、気になっていたのが良かったです。すごく丁寧に優しく教えてくださり、一緒に考えてくださって、いい作品ができて、いけばなをおばあちゃんにあげることにしました！すごく喜んでくれて、また機会があれば作りたいとおもいました。

(中学2年生)

教員の声

■昨年度も11月に1年生の指導者として体験させていただきましたが、体験する時期が違えば、お花の種類も違い、今回も素敵な体験をさせていただき感謝しております。

(特別支援学校高等部)

■子供たちの発想を全て受け止めていただき、のびのびと活動できました。

(小学校)

■非常に有難い取組であり、次年度も是非お願いしたいと考えます。

(中学校)

おわりに | 謝辞

2025年度も府域各地を舞台に、地域プログラム及び次世代向け派遣事業を実施することができました。

丹後、中丹、南丹、山城の4地域で展開した地域プログラムでは、その土地に根づく文化資源や風土、産業等を手がかりに、リサーチ、ワークショップ、パフォーマンスなど多様な活動を重ねました。アーティストをはじめ、参加者、地域の皆様と時間を共有する中で、新たな視点や手法を通じて、地域の魅力を再認識する機会となりました。

次世代向け派遣事業においても、茶の湯やいけばな、アートとの出会いを通じて、先人の思い、いま目の前にいる人の思い、自分自身の思いと向き合えるような時間を提供することで、次世代を担う子どもたちの心の豊かさを育むことに努めてまいりました。

地域の文化資源とは、私たちからかけ離れたところにあるものではなく、長い歴史や暮らしの積み重ねから生まれ、受け継がれてきたものです。身近であるがゆえに見過ごしがちな価値も、視点を変えることでその姿や意味がより鮮明に浮かび上がります。

京都:Re-Search実行委員会が目指すのは、地域に息づく営みを丁寧に見つめ直すことにあります。それぞれが暮らす地域に親しみを持ち、背景にある思いを次の世代へ伝えていくことは、一人一人のアイデンティティや心の拠りどころを育むことにも繋がります。本事業が、地域をかたちづくる豊かなモノやコトへの気づきとなり、寄り添うきっかけとなれば幸いです。

最後に、本事業の趣旨にご理解を寄せ、実施にあたり多大なご支援、ご協力を賜りましたすべての皆様に心より厚く御礼申し上げます。

発行日 | 2026年3月発行

発行 | 京都:Re-Search実行委員会(京都府ほか)

編集 | 京都府文化生活的部文化芸術課

表紙 | KYOTOHOOPロゴ(三重野龍)

印刷・製本 | 株式会社サンエムカラー

KYOTOHOOP

主催 | 京都:Re-Search実行委員会 (京都府ほか)

令和7年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

